2.6
4430

山田美妙著
主人公の親戚
作品名
百年後
6
4430

特
6
4430

帝國圖書館

韻文新體詩

の作り方

今まで世の一般に韻文新体詩の作
り方としてもっぱら、その本質タイ
プ、すなわち格調、すなわち韻
のみを重んじ、その外形、すなわ
ち、ふみづかい、ふしづかい、
古文、古文の中の古文、
ふしづかいの中の古文
なる。

1

略する。

○[illegible]語句[illegible]

いろ〳〵語句を[illegible]事が[illegible]、[illegible]で自分に[illegible]できる。故に[illegible]韻文[illegible]語数、言語の[illegible]、言語の創造がいろ〳〵[illegible]。

[illegible]

る。故に[illegible]韻文は音律の[illegible]。音律の割合[illegible]

[illegible]ち御陣取刈[illegible]ものが[illegible]
[illegible]くれて[illegible]
いろ[illegible]は徳河[illegible]
さて[illegible]の志[illegible]
[illegible]
いろ[illegible]
つ[illegible]
歌[illegible]
自由[illegible]
[illegible]自[illegible]
[illegible]行[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
鳥羽院の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

意味からの歌の、一つである。

他の、みちのくの[illegible]

[illegible]

[illegible]同じく同じ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治あらそ、その紙面と經濟
とをいふことの明らかである。（
桂冠詩社の宗匠なる
人々の句をしらべ
ると、奇しきまでに、
何でもいふ事をきて伝ので
あらいしまず、十分練習をして、
今時の弱体をこの一点で喜ばんば
らずである。

句格總論

和歌を改良したこと一和歌に三十一
二總句數五 昭和三年五月廿五日

定の型がある、幾回でもある、繰
返されて十さ、迫回数はきまる
数ならいろ定まるのである。いくつも
詩文の新體はくづくづうまれる、
ぶ一定の型として八百出来て居る
ととなる。七五調でも有る、五
三調でも有る、七さ調のものもある
七五調もあり、却つてかなでは
くづる多い。そのくづ方も不
規律なのである。不規律
その方法も悪、勿論くづくづ
ひとりでいくつて拙くて規
律であることは所石三つ目のいくん

[illegible]

行を示すものとして、

[illegible]

の一般と特殊とを区別するために

[illegible]

[illegible]

[illegible]

が韻文の発生をこゝに求めるのである。

○句格の種類

こゝに成るべく多くの講紙の中の屋上屋を重ねるのは、それでは多くの行格の中から、十一の句格を選んで、それを種類の、それぞれの特徴を説明する。

こゝに句格の説明は、詩の規則を説明する。

詩学は、詩の規則を説明する。

詩学は、詩の行格をもつて、

[illegible]を思ひあまり[illegible]
[illegible]、[illegible]しで[illegible]のもの
も[illegible]が[illegible]
る。[illegible]五、六、七、八
の[illegible]。

の五、六、七、八の[illegible]
句の[illegible]

その一五。

五、[illegible]発する[illegible]
五、[illegible]。
、みるみるも　さくらぐさ
ゆるぐ　[illegible]
六、七、[illegible]。

てるくち、一ゆたてるづさ
いてるたちて
つてるたちく
ちゆうぐ。
ちゆ、ゆるぐ、さうてちる。
かうゆるにさ
かぐてうえぐ
ぐてうて
くてゆえる
心てゆるぐ、ハてちる。
はてうてん
いぐふうてし

以上例示したものは、うたを
ふくんでいるものとうたでないものである。

○二・三・四・五言

うたの二言、つぎの三言、その
うちで一句をなしているもの
を二語の五言という。

例示するものは、
ゆかしさ　ゆかしさ
ゆかしさ　ゆかしさ
ゆかしさ　ゆかしさ
ゆかしさ　ゆかしさ

名詞と名詞を組合せた一名詞
そのうち活用語、そうでないもの
つぎのゆかしさ二言、そうでないもの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○三、三、の、三、言

ふるさとのながき三月、つゆさむき三月の
ものて　すなはちなみだ見えくつ
くだけたり、ふるのうたづの拍子
れである。

○二、四、の、三、言
○四、二、の、三、言
○二、二、二、の、三、言

かくの如く詩文を用ゐるとき、その
音律はなはだ結果をきたすことを
思ふて、うたの音律は三拍子
ばかりなるべきあるものゝ
それをそこなふ。詩歌を別すること。詩歌を

例って言ふとすれば、
作者は何人でも、
其の全体を
見て居る筈である。
しかし個別的の
ものを
取扱ふ場合
には
それぞれ
別々に
取扱ふ。
また、
の三名詞
の中で
二、二の
例を
挙げて
見ると
のの
の
ものである。
ものに
の
別々に
取扱ふ。
いずれも
二つ、
また

と云ふことである。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以上の二箇條は今條約改正の
のであるが、それは いろいろの
理由から、なかなかむつかしい
ことであって、同樣相互撤廢或
は撤廢の定條を設けて
て、その實行を遂げて、
言語上の撤廢或は
ならぬものであるが
わて、これは
ものであるが
ものの條件
の條件である。

それでこの要點の中に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
る。

○三四の下三言

これを初めの三言、つぎに[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○四三の下三言

これを初めの四言、つぎに三言の
[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]

○あとのたとし

てにをはのこと、つゞけかたの詞、

たりで一句をなすもので、

をはりのてにをはである。

なるゝ　なるゝ

ゆゑ　なるゝ

なるゝ　なるゝ

○なるゝの大意

此なるゝは、なられて一句をなすもの、

ゆゑのなるゝ

なる　なる

なるゝ　なるゝ

なるゝ　なるゝ

右御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]、[illegible]詩文作者の所
[illegible]作品[illegible]次[illegible]の有[illegible]
[illegible]らしい。

○四・四・の八論

[illegible]ぶ[illegible]あ[illegible]つぎ、[illegible]
[illegible]一句を成[illegible]で、下
[illegible]ある。

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○三・五・の八論三

[illegible]が[illegible]る、つぎが五[illegible]

で一句となるこゝろもてゐる。

あるく　いくたびか
こゝろぶと　こゝろぶと
いでゆく　みちのべの
わかれ　こゝろは

○五、三、の詩

ゆくぶと
こゝろあぐ　いくたびか
しる　秋の
こゝろ　こゝろ　さびしさ

一貫そなへて
句格の一二
和歌の句格五五七五七五七七とさだめて一
そなへる句格を侍の絵図みな
に五五五五とさだめて漢一そなへ
てる句格をもつて、とかくみな
く、ひとへに和歌に一貫してそな
句格の変格のもとをたづねるに
その句格を所詮とする
るの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の、ふくれ作者の御宜しき句を
て、二句、乃至は、五句は
正しくて宜しいのである。但し一
つの句格でくずれる、
別の格をもつて、第下句
格で一首、しかく一第を作る
りて詠むべきものである
ふを成るべし。大切な点をもつて心
はしてまつのうちわけである。

五の句

五の句を立言として一句と
する、その一句が眼目として、
れを一首の一句、曲とする格

一である。

「從事と変じて……（五）

鳥とぶ……（五）

君無しで……（五）

ふく行く……（五）

「あの時かて……（五）

やまあるあるが……（五）

ゆうひしげ……（五）

水の……（五）」

五二　六の同句

六月　そそとそとそと一句

[illegible]

[illegible]

「[illegible]……（三）

[illegible]……（三）

[illegible]……（三）

「[illegible]……（三）

[illegible]……（三）

[illegible]……（三）

[illegible]……（三）

[illegible]……（三）

四三　七の四句

七の四句をもて一句とす。四時有るを以て其の一句が四時を一首（一年）の由をもてなり。

「雪ふる降る。……（七）

ふるふるふる……（七）

ふる……（七）

ふるふるふる……（七）

「ゆのふる……（七）

年をもて……（七）

あらでふる……（七）

(三)……

問の八

八の問題……

問題の一……

問題の二……

抜

(一)……

(二)……

(三)……

(四)……

(五)……

[illegible]

[illegible]

[illegible]

矢っぱ舞ふ……(ト)

――

五・七・五の句。五・七・五の句。五・七・五の句。

連続句である。

「ケ見ふ……(ト)

ケ見ふ……(ト)

咲くこと……(ト)

ケ見ふ……(ト)

ケ見ふ……(ト)

咲くこと……(ト)

咲くこと……(ト)

ケ見ふ……(ト)

ケ見ふ……(ト)

ケ見ふ

見モ　七五の二句

七五の二句、初の七言、その七五の二句、連続して一句を成す、此二言の連続して一句の二句なる、一例なり。

その二句、一例なる事、（七）

右、如何に、（五）

為すなり、（七）

ばしなる、（五）

見八　七五の句

うれしいそゆる今やうで、仍りす

どのくらいまでよらしく暗誦するべきかとおもひあり。

第九　八六の二句

八六の二句は初の八言、その次ぎに言言、此二言の連続したるものを一句とし、その一句が二所有って、ちょうどこれ（一番）ようなる。

ひとつのものの……（八）
やさしくて……（三）
ちからそなはる……（八）
こぶのゆめ……（三）
できる

わかるるとは……（八）
ゆくへのやまにいでぬ……（三）
ひとしれずたちてぞ……（八）
こがれそめつる……（三）

つぎて

ひとしれぬ……（八）
こいつまもる……（三）
ふるさとに……（八）
ゆくへのやまに……（三）

つぎて

わかるるとは……（八）
ひとめしげきの……（三）
ふるさとの……（八）
春雨とこそ……（八）

旅！　如心

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たとえば、七三、
五七五、
五七五、
五七五

○六月分

六　六　郡ら、

六　六

三三　三三（甲）

二四　二四（乙）

四二　四二（丙）

七　七

三四　三四（甲）

四三　四三（乙）

二五　二五（丙）

○七月分

七　七　郡ら、

三三　三三（甲）

二四　二四（乙）

四二　四二（丙）

七　七

三四　三四（甲）

四三　四三（乙）

二五　二五（丙）

五二　五二
の八の四同
八　八
即ち、
八　八
五三　五三
四四　八八八八
八八八八
五三　五三（甲）
八八八八
五三　五三（乙）
四四　八八八八
八八八八
五三　五三（丙）
三五　三五
八八八八
五三　五三（丁）
二六　二六
八八八八
二六　二六（戊）
〇五七の二同
五　七
五　七
二三　二三（甲）
二三　二三（乙）

三二　三二　三二（ウ）

五の四句

ありあけの二句とこゝろつくべきもの。

五の二句

七の五

五　七　五

三三　三三　三三（ア）

三三　三三　三三（イ）

五の五句

ものゝあはれの二句とこゝろつくべきもの。

○ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ [illegible]

[illegible]

の八六の二四

八　六

即ち、

二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
八	六	五	五	五	五	五	五	五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
八	六	五	五	五	五	五	五	五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
八	六	五	五	五	五	五	五	五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
八	六	五	五	五	五	五	五	五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
二四（甲）	三三（乙）	四二（丙）	二四（丁）	三三（戊）	四二（己）	二四（庚）	三三（辛）	四二（壬）	二四（癸）	三三（子）	四二（丑）	二四（寅）	三三（卯）	四二（辰）	二四（巳）	三三（午）	四二（未）	二四（申）	三三（酉）	四二（戌）	二四（亥）	三三（子）	四二（丑）

五三　二四
五三　三三
五三　四二
六二　二四
六二　三三
六二　四二

五三　二四（癸）
五三　三三（壬）
五三　四二（辛）
六二　二四（庚）
六二　三三（己）
六二　四二（戊）

の八六の下の角
而の八六の二角と
うらづけられる。

九角
九

○六八の二句

前の八六の二句と

つゝくものとして例をあ

げるもの、つゝくものとして一つ

宜しくみ

六

三四	三三	四二	三三	二四	三三	四二	三四
二六八	二六	二六	三五	三五	三五	四四	四四
二四六	三三	四二	三三	二四	三三	四二	四四
二六八（甲）	二六（乙）	二六（丙）	三五（丁）	三五（戊）	三五（己）	四四（庚）	四四（辛）

八

思ひ出すこと。

四二　四四（辛）
二四　五三（癸）
三三　五三（己）
四二　五三（戊）
二四　六二（丁）
三三　六二（金）
四二　六二（土）

前の六八の二句と
ちがつてゐるもの

二つ

へんなるもの　みとめ
時々に音数の

て有るものゝ意代すると
ころを明白にしてのみならず
ふかくして、細論をふくむ語
て、ものゝ最早の意味をもつて
九、言の意味の例をあげ、それで
文法的にみたる上からみる
時代的のものであること
らをみると信ぜられること
です。

すると、ものゝのこと
を意味することゝ、たゞものゝ
つゞまりたるものゝ意味
であります。

[illegible]。[illegible]九[illegible]と九[illegible]
[illegible]特別[illegible]所[illegible]一年
[illegible]ばかり[illegible]
[illegible]試み、且定[illegible]わ
居る。[illegible]ふと山
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]

分す。

[illegible]の表

仕じつ表。

二七　三六

四五　五四

六三　七二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

エレメンタリイ、サウンドを与へられた場合の強さ（或は弱さ）約束の一般的な一句を作ることは、九の場合のもいと有利なる。　なるべく簡単な場合、弱くて、而して、強くて、作りやすいものを初とす。

九の四句

具一　二七の九

二七　二七　二七（甲）

三三の九　三三　三三

三三　三三　三三

四五の九　四五　四五

四五　四五　四五

五五の九　五五　五五

五五　五五　五五

六六の九　六六　六六

六六　六六　六六

七七の九　七七　七七

七七　七七　七七

○用語の音調について

前文の音調について異成
るべく作者の語を使用する
ようにしたるも目的
ふくまれてゐる。
いて一つ目方の失敗作をしるべ
やすき思ひをしたる。
てんしゅの時代に二十
ちゃを作る騎兵に心ある「酔ふ武
士」として世に知られる
しゅの有。その今つくってゐる
のくさ曲馬である。

り曲もの音のみ。ふるうて、其
行くらくまでわれる曲の中の新
らしいものの有ること。思はし
ゆくと　月のの　ある風に
なのうて　鳴る　音。
こゞゆる　午夫　而るうして
いくまで　八百　制の音
るりうの郷　まる　まるく
行く　心　まく　いさゝか
上　吹」
身まで行くまでうたが、有る
曲、雪とるらゞ　とりの戦場
の雪物　とりの戦場

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面白くもなきものと思ふ。とて改作する者
多し。即ち作者の言に、即ち作者の言葉にて
つまりて云へば、作者の言葉にて云へば
何とて知らぬ、つまらぬ事なり。
何とて知らぬ。
こゝに、即ち三寸の金るのまつ
と等迄の高低のらがアガ
ルこゝろ。　即ち十
万歩にて、こゝに、即ち十
万歩にて、こゝに、即ち十
万歩にて、こゝに、

六一るのじがアガルべき箇所の
ヒである。そのうちどこかふくさき
の勢るのそのなかにてまたまた
のとをしらうちのびるうの。
そわて、そのうち。
同わて、こんなそのたとえを注
の考るのうしと拘りず、子孫的
ヒこのもこのアガうるて同わて
しも解るうしてのるたるる
治じうしてはしい。それし
くそれそのうしと伝伝うるが、
やそうそれ。
それらのこそ治てアガうる

[illegible]、[illegible]、[illegible]アゲ[illegible]
[illegible]語の[illegible]味が[illegible]
[illegible]。

[illegible]、中[illegible]が上[illegible]の時の
[illegible]是の[illegible]、[illegible]
[illegible]味が[illegible]の、
中一[illegible]のひが[illegible]のまち[illegible]、[illegible]
で[illegible]味の[illegible]、[illegible]虎
引制[illegible]中[illegible]こえて来る。
虎引制[illegible]はじめがあり、
[illegible]中一[illegible]、[illegible]
中一上である。[illegible]のこと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いてたら困るこゝが有。
るのを見て「手を持つてつれ
つてやらうしやうのだあるゝ。
行つてるのを見て田舎者こゝ場の雲作
上是ゆゝ見ゆゝ二人のいとアゲたる
小心作らつのだあるゝ。　そいと
アゲて見て困るこゝゝゝゝ
まるゝ、こゝゝゝゝ
ゝゝゝ「手を持つしが
ゝゝゝ手荷物し中のゝゝ
ゝゝゝゝ。「明荷物
中ゝゝ作らゝ掛所、そで
まゝゝ、ゝゝゝゝ二上
ゝゝゝ荷ゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新體詩歌作法

標題ニ六回ニヤウニ

[illegible]

新年（ミン）

〔語句〕

（五）

かぐらうた
かぐらうた
かぐらうた
かぐらうた
かぐらうた
かぐらうた
かぐらうた
かぐらうた

TOKYO, JAPAN.

朝霧の
立ちのぼる
雲の上の
月のかげに
ちらばえる
星の数に
なぞらへて
ながめやる
ふるさとの
いでいる
ちらばる
あつまる
ものの
形つくる

あけぬるそ
あけ去ぬる
ほろ[illegible]
そうの[illegible]
君ぞうら
ちかすの
後の所まで
あまたの
ちゝ所の
ひと夏ぞ
ゆのそそ
そくはる
うらたち

いそは
よらぬそそ
[illegible]
にそその
ちかその
みそそにや
はるゆく
そそそふそそ
[illegible]
そそそ
[illegible]
そそそ
[illegible]

神代より
人々の
うづ
しるくの
芳野山の
こずゑ
まさ
みちのく
ひらの海
はぐくもる
破屋のみ
てらす
てらすの
月の
はるのやま
おぼろ
風
ゆらぐ
くもぢの
はちのこ
猛者
てらすの
破屋
てらす
月

穂先にすす
崖際のをぶれ
搭や
つち雪の
うずのつもと
ひくしぶる
つゆけしの
ひくみのつ
かつる取
下の花はち
ちりぬ
ひ芝のあるの
ひくしぶ布
ひくしぶ布
柳の

かづみさと
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

（三）
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あしのかげにて
ものすさまじ
のこる常盤
松のこえ
つはものあつ
あすは月すみ
月なれども
日さすごとく
てりかがや
月のみか
あつまる
明日行こと
えてうの

かげうの松
いろも常盤
みどりのの
ものも保
あのうちに
ちりぬる日にて
照る日のごと
照てくもる日
はつかなる
月のみかい
やうちり行く
にれも照て
年あつの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あけの鳥

うすす声す

あつてよみ

わかつぶ

けつ鶏鳴

鶏

鳥

ちちちの世

あるふとめて

とちちみまきふ

あちちの

ちちの行

鳥

鳥

鶏

鳴

羽

鳴

家鶏

鶏

鳴

行

雪をまとふ
あしびき
梅がえを
梅のいろの
みちに
つもるうす
ふるさとの
うぐひす
手毬つき
ふりかへり
ちらすとも
ちりぬとも
ふるさとの
梅

雪をまとふ
あしびき
梅がえを
折りてかざす
春さらば
つぐみ
ひとりぬる
ふるさとの
鶯
手毬つき
ふりかへり
ちらすとも
ちりぬとも
ふるさとの
梅

めぐみてふ名
ゆゑとなすも
宮にまうで
四方を拝む
鳴くとも烏
のはる紙きの
砂とぬぐして

（七）

ゆかりの
ものとうぐ
ひすぐに
ぬぐの
ぬぐの

年のほどのたれ
[illegible]
つもる齢の
年のうち
祈りつて
いでうるな
人のこころも
もちたの鏡
ざるの年の
ひのうちの
月花の
いでゝ朝ぼら
きる雲の

[illegible]
[illegible]
空のうぶすな
神がゐます
[illegible]千載
[illegible]を待ち
[illegible]
[illegible]のあらば
明[illegible]の
あけを告げぬし
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]人
仰ぐ[illegible]の
[illegible]
[illegible]代の[illegible]
[illegible]千年
八千代の[illegible]に
[illegible]
[illegible]
いつの[illegible]の
あけの鳥に
[illegible]
[illegible]鶏
[illegible]の[illegible]

君がみよの
千代に八千代
さざれいし
の巌となりて
苔むすまで
いつくしまの
やまと国
遠くにしら
げて
千代をいのる
人のよろこ
びすぐるあ
ぎとうの
冰ゝ
ちよにいのる

子中ヘナ次ギニスコレ有ガ此ヲ上ブル

みよるけふの
ちはやぶる
やさき心く
年く経ても
なほ島根の
よろの国じ
神代もかの
八つのくちや
ちるも初る
るの年をそ
いつくしまの
ちよる波の
ちよにいのる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

せとのうみに
とぶとりの
鳥ちらす
礼者は紙鳶して
空うつく紙鳶の
唐くしの硬さ

（七）註

松ちらしたる
松ちらしたる
ふるさとの松
いろうの緑
松ちらす

神を祭りて
鳥ちらす
例年にまさる
いとう、紙鳶
町よりする
ちらす

うぶかたる松
松ちらしたる
陰ぶるさと
松ちらすうぶ
郭ちらす

[illegible]

[illegible]の園の猫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠葉の

千代八千代

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（八）四

すぐ伝ハ
ちちのうぐ伝
かしづの小伝

今ハうぐ伝
みづのうぐ伝
ちちつく長ハ

あるひは彩りて
かけるものもあるべし
詞ゐるべしの
ゑがきつけたる
てつのあくやかの
宮ゐのもとの
引くるの御
朝がほのうつる
ものすがた
あるのを「有」て
そこくに入れ
玉集ふ手
わがの宮ゐ

のうがりあるふこと
ちるものもつる
みたの袖りば
匂ひを思ひ
くるかなきもの
いとふすの
居殿くゑ四人の
中の
にくゑ鳥
たるものの
神代のゑを
むろてたるる
ものたてて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（八）三五

やつの浮みてゝ
あゝ日やばゆゝして
てゝ砂雲うん
はの花の香の立ばす
砂ゝゝゝてゝ

（八）五三

浮みてゝ私の
やつばゆゝしも如
砂漠をつゝて雨ゝて
花ゝてゝ海岸の
ゝゝ砂ゝ清ゝ

私の色ゝゝ
みつゝ紅ゝ
ゝゝゝ雑色ゝゝ
ゝゝ稲わゝ
のゝゝ私と

ゝゝのゝゝ私の
裾野ゝゝ
いゝゝゝ雑色
稲ゝゝと動ゝて
私ゝゝゝ。

（九）

（十）

（雅用）

（五五）

かぐやこの
うつせみの
なげくなる
そらにぞ
いでれば
かぐやこの
ひとりとて
なにわびて
なげくらん
月の都の
人ぞこと
なるらん

（五十六）

つゝる人重井こゝして

つゝる人のゝゞ行くゝ

ゝゝゝ行くゝゝゝ車

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ行くゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

（三五）

つるそ人の のぐりけれ

よあ年つるそ

[illegible]の [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（三五）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（五七）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（十五）

[illegible]

風[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪[illegible]

[illegible]

山の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（八〇）

（七五）

四季部 貳

雪（七）

〔詰句〕

（五）

ふるゆきの
あるゝゆきに
ふゞらこし
ふるゆきは
ゆきのうへに
ゆきのうへに
ふるゆきの
ゆきのうへに
ふるゆきの
ゆきのうへに

雪ふるゆふべ
雪しのぶ心
雪にうもれ
ゆさまもる
ゆふべ
雪の夜
ゆふぐれ
雪ふるけ
ゆふべ
ゆふべ
ゆふべ
ゆふべ
ゆふべ

雪ふるゆふの
雪ふる
雪に明け
ゆふぐれ
ゆふ
雪ふる
雪ふる
雪ふる
ゆふべ
雪ふるゆふべ
ゆふべ
雪ふる
ゆふ

雪ふりて
雪ぶりの
雪のうへに
きえぬべしと
いやぢかくに
ふるゆきに
雪の山
大雪のきに
雪ふりて
雪ふりて
雪ふる夜
ゆきの朝
ふるゆきに
きえぬべし

雪ふりて
消ぬる雪に
きえぬべし
きえぬべし
つもりて
ふりつもる
雪の山
雪ふりて
雪ふりて
雪ふる夜
ゆきの朝
ふるゆきに
きえぬべし

あつまりて
ものがたりて
あるべきこと
宮、ものの
定めさせも
行つ書の
かきつけて
そのうへの
ぶぶくらて
ひきて
うだちて
いづこにか
見えて

ふるまし
跡もなく
なりぬる
のちのなく
あるべきに
和かなる
なきとて
やまりて
杯ばかり
寄せて
ものの
清めて

うづみたる
[illegible]の
[illegible]
風のこゑ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

（三）

雪ふるつゆの
雪のあしたの
人と来ぬ
ふるさとの
ゆくへもしらず
あとさへ
そのふるびに
ふるしらの花
ちりぬるとて
わ雪とも
いふべきに

雪ふりつみて
雪のあしたの
花ぞ
ふるさとは
ゆくへもしらず
ふるさとの
ふるしらの花
花ぞちりぬる
雪ぞ
あとなく
ちりぬるに

ゆらにはなる
ゆらにまかれて
雪とふるも
雪とふるみて
ゆらのくぶる
雪とふるも
ゆらにけぶる
るぶるるて
ゆらにはなる
ゆらにまかれて
雪とふるも
雪とふるみて
ゆらのくぶる
雪とふるも
ゆらにけぶる
るぶるるて
ゆらにはなる
ゆらにまかれて
雪とふるも
雪とふるみて
ゆらのくぶる
雪とふるも
ゆらにけぶる
るぶるるて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹くと風
つゆの玉
ぬきの枝と
まちかねるは
ひとし知らぬ
人と云ふの
花と見る
人あり花を
仮ぬ庭も
下草の葉
ひとすぢ道
あつまるまま
風をさそふ

風吹くと
思へばわが
くまと降り
てまどろ
ふかきを
しとくるる
ものあれど
折ふしぞ
ものうたの
歌をうたへ
折ふし宗
風をうた

(十)三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（七）三

つもるとふる雪
つもりして
積みてふるとも
人のあゝ行て
人も訪ふこゝぞ
山のすゝけに
ゆくやとぶらふ
そゝぐら寒さの
ひとぐらとぶらに
まつのかてきて
ぬくとい
人を訪ふし

ふるとふる雪
雪をふみ
雪をふく人の
あとを行く行
やまのいとに
ふぶきに吹きて
吹雪倒れて
ふぶきをふる
ちゝや行ぶら
行くあとも
ねるの行く
ふるふる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹のうへにつもれる
雪のはらはらとくだけてちる
雪のうへにつもれる
雪のはらはらとくだけてちる
雪のうへにつもれる
雪のはらはらとくだけてちる
雪のうへにつもれる
雪のはらはらとくだけてちる
雪のうへにつもれる
雪のはらはらとくだけてちる
雪のうへにつもれる
雪のはらはらとくだけてちる

ゆくすゑのゆつるぎ
ゆくすゑの五位の
ゆくすゑのこころに
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ
ゆくすゑ

あしの続く
陸奥のくに
をすぎてやがて

いづこも
ひなびたる
ありさまなり

（七）三五

やまとなまり
ちがへるなまり
人ちがへ
なまりなし人
人語らず
山もりの
ちからづよき
ますらたけを

やまとなまり
なまる山のくに
あしの続く
ものなし人
やや遠くなる
人語らず
山もりの
ちからづよき
ますらたけを

けふ吹くなる
花のうわかぜ
ろ風さえく
いつぐてこそ
すさまじけれ
風いとつよ
海なりや
風さえて
迅のつぐる
竹とこそ
折る力とて
おつる〜中の
手もとぐさて

春ぐさのしを
なる花さき
あめまる降て
定なく
すさまじ
海の風
海さえて
よせくる
粉雪
ふるまひ
ゆきのみち
ゆきのみち
行く

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（八）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風を吹かせて

雪をつもらせ

ふるまふ

源に

柳のみどり

乃し年をかさね

根ぬけの

(八)立ち

山のなだれ

ふるまふ

雪に

ふるまふ

(九)四月

ことよりの雪

ちかのうの雪

今こそ雪は

根ぬけの

ふるまふ

ふるまふ

ふるまふ

山路の雪の夜

野寺の夏草や
俗の行縢るか

（九一五）

軒ちかき雪
大仏殿の
ちかきあたりの
うわの音遠う
忘れうつ夏の

人気
なるまに
明るつゆ新け
ゆくまに
ひかるる
ひかるる

（五九）

「應用」

こつかゆきの

風雪

降りつもる
雪のうへの
ふぶきする
道に散る
山ざくら
粉雪ふる
しづかなる ゆふべ
かくれ行く
やまとへの
ふるさとの
芋よせて
雪どしの
雪みつる

降りつもる
ふれる雪の
おとづれる
玉のごと
雪ちぶり
そでのうへ
えだを打つ
ちからなし
市のうち
雪の竹
雪だるの
寒ふるみ
くるめる

（五六）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（三十五）

いそぐとてゆきをふみわけゆくほどに
雪さ知らぬゆきぞ春の食
こゝろのうちもゆきの朋
ゆきのすゑ雪を解く
ゆきとけてゆきとけてすゆ
雪とけてゆきとけてふるゆき
ゆきとけのゆきとけて初ぶ
沙ゆき雪に仏のうぶ
みてそしらぬ雪の花
うきもの世間を降る
うきもの世間を降る
雪うの山路をしぶく

（ちち）

ゆるの山に秋ぞきこゆる

夜の[illegible]

くれ[illegible]

ゆるぶ[illegible]

ゆる[illegible]

ゆる[illegible]

[illegible]

ゆるゆるゆるく[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（五七）

降くらしすまるも
野とんもいらしつも
ふてくるる瓦の
ふる合こ人ゆたと
宮ゆるも ゆるいとる
定めを鏡ふるに
鈴ゆらで泣るふる
ふるのあれ行て
ふるに
ふるみ・ふる
ふるにふる
定ふるに事ふる

（七五）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（八七）

（九五）

○春（シュンレン）

陰暦で二月の節、陽暦でまさに二月二日ころの日、この日ころ春になる。

（俗名）

○節分（セツブン）　立春の日のまえ。

その夜、桃の弓で桃の苗で作った矢を射る。

○鬼の矢

この節分の夜鬼を逐いはらうために、青萩でこしらえた矢を射る。或の方へ。

桃の木で造る。そのほかに

事根元（文化雜說）

（十二月晦日とされ後世でいう説）

とある。

ゝ行られぬ、大会人驚嘆ゝ
め陰陽寮祭文として宮殿の四隅に
一すゝて候ゝ。上卿以下公卿家
殿上人ゝ御殿のゝ間に立てゝ、
桃の弓葦の矢にて鬼門に
りのゝて東庭より往て、滝口の戸に
出ゞ。しゝゝしゝゝに多く
そゝ。東庭の朝餉の前
ゝみゞゝに燈臺ゝ立ゝ
ゝゝ。追儺ゝ
疫鬼ゝゝ。宮中の
方相氏のゝゝ。四目有ゝ
ゝゝ。四隅ゝ
ゝ

ツギノツギノ紙即チ第80番ノヲ持ッテ来テ出シ紙ヘツヅク

○[illegible]　今日[illegible]
が、南[illegible]風俗として殘るの
[illegible]
[illegible]。　大豆を炒て熬て、一家内の
一年分[illegible]の大豆を[illegible]
口、[illegible]の出る[illegible]
[illegible]、[illegible]の一切の邪鬼
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。

○福[illegible]内　[illegible]
[illegible]句。
曰く、福[illegible]内、鬼[illegible]
り惡鬼[illegible]の祝詞である。

○柊（[illegible]）　鬼[illegible]

そこで、お宮まで行ふ
家で、第六の段の板をひらき
に、焦がす土のひらき柳
まだ。その格の板をひらき
しそこで。
○あるひは　古稀の清の鶴。
ひとつ五分ぐらの刻んで枝の
の板をひらき、それにすきて一切の
出て、ひとそこ。　夜戸にたちち
そこちゃちゃちゃ行ふ。

ウレカラ
ツギノ紙ニ「磯禁」トアルベシ

（コマヽノマヽ紙印オ78ホウケン）

と行く。……慶安三年十二月十日

さめて。『今ちくらんしんしんの時

あしの矢の射しの如くに年そ

いる『内方』。

○ろ……

根元の文字見えず、ねに（鬼）

ぶふ（遣）の字なるべき鬼と

逐しかと。……で遣難（ナ）（ヤ）

（コレカラ前ノマヽ紙印ナイノ印ナシ）

（ロ）磯菜（ナイノ）

後世……若菜のこと。孤

。吉ヤしの方はまで……ふし

ゑるので、別れ……

（ヒマヽキレト書出シモ枝ハ次ノページ）

の茶の有るもので、実をとって
て呑むことになるらしいが、
るらしの、ひとつの言葉がうつし
いと、同じ意味のうつし方が
前文の用法とは、行なわれ、こと
なるこの筆がとある。

田 春実し（シュン）
春の終りである。猶実さのこる。
。そうすると、のこるこの
ざさていふ、漢語で春実（シュン）と
こと。別に陰語で残実（カン）と
まる。この残さをこそ普通に
さしこそうぐ語、実文

[illegible]て、[illegible]詞
[illegible]用[illegible]
[illegible]。所に
[illegible]
[illegible]が弱く、[illegible]強く強い。
但、[illegible]
春宴（[illegible]）[illegible]詞文[illegible]
用[illegible]
[illegible]ニヒカン[illegible]
[illegible]用[illegible]
[illegible]持[illegible]
[illegible]
[illegible]
味の紀行[illegible]
[illegible]力[illegible]
[illegible]。古人[illegible]
[illegible]。[illegible]

（略）の度服の人を
ふてらエンカンを引用するを過
ける、その代りに仏を文字など
る。これらの言葉
の用ゐを敬服するべきである。

④ 篤（遂）

【備考】○

杜鵑と

杜鵑の代りに
ゐるのは
ず、印を言ひ
ひ〳〵の人に
言葉の

[illegible]知らず、[illegible]して驚くべきもの。[illegible]
て、[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]親[illegible]似
[illegible]の生[illegible]比喩[illegible]
[illegible]。美文[illegible]同[illegible]村[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]に、[illegible]
[illegible]に[illegible]似て
[illegible]に[illegible]似て[illegible]
[illegible]の[illegible]野[illegible]
[illegible]……」

○人〻ふゝ笑ふ　人〻こゑ和、ゆたかな人間がゝる　人〻（ヒト）もの

のこゑを聞き声を聞いて「人が来る」

とつゝとゝまり接して「人が来る」

ものをて。利ゝるもの。―百分集、

「うゝの花見ゝこゝてきゝ小言のひ

ゝまゝ」といとひ。―大

和物語「うゝぐひすの声

ゝぐゝもの　ひゝ　鳥ゝゝ誰ゝ

ゝゝゝん」　ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝて高

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ。

○鳥の笑ふ逢ふの花　笑ふの花の

○梅の花の咲ぶるを見て

梅の花咲くを行てみるに　て絵
ものと雪ぶ花を絵ふるこ
ゝぐ　あらうと　彩色しらわ
ゝ　一　古今集　春上　人屋さうに
しるの雪を落ふ　てふ梅の花をそ
てゝ　ふ　花ちるやとし
○谷の戸出づる　春の陽気を知る
春ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
春ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
出る　る　昔　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「垣根」

「垣根」

「垣根」

が咲くと、梅のあとで野にはみて
春たちかぬ、みてのど春のつぐてと
がわかりとなる。
ごの鳥ないつくしの。
右、七夕和歌のうち伝聞歌即
貴人の娘のうつくしく伝聞歌即
知りつ、つもりつ、人しとつて合
きつつふりてたる。七夕伝
つよりて貴人の娘。右急書和歌
をつ、ぬ。
が有つつ。
後つるて「春
の
よ」て終の、つ
春れをいしとら

事所
伝聞

しかしてしょせん居る。つづいて
こゝでいまだ行はれる二言
葉。「まことに」
なる言葉は仏蘭西語の
風習の一つゝ云の祖かしんを
所謂言葉である。つづ
いてこれは特殊の意味の
言葉で有の場合用ゐ
られる。

しかし、なほ、なほ居る。うづのみ
こゝ了いまだ行ふ之一言
す。また、
また「ひとの名」といふ異名を
有る事ども行はれまして、
別異語のつゝ二方の社のしるを
所なるまつり、
かうるもんを、何の特殊の法の
まつりてのぞむ有の
るまを今ゝ明らかにしらるに
でる。
○殺人のこと名2。
つるるがゝ活ミ活罪法」まつる
るまつりつゝ、ひち行をよ
心鳥しの蔵り用ひちをゝ。

（五）梅（刃）

（備考）

梅[illegible]の種類が有[illegible]
[illegible]の各月に[illegible]一有る。
その各月に所[illegible]約文に用ゐ
て[illegible]迎春[illegible]有る。その[illegible]
[illegible]の白梅（心花）紅梅の[illegible]
[illegible]ウメ[illegible]。又て一般の
人の[illegible]。只[illegible]花[illegible]
[illegible]あ[illegible]即ち[illegible]だけの各月で
ある。[illegible]主[illegible]て白色一
[illegible]の[illegible]
[illegible]二月の[illegible]の[illegible]
[illegible]。又各月[illegible]
[illegible]。

○紅梅（コウバイ）　紅梅のうすきを、
やゝ濃きのやうしつゝあり。　ひとえ一
重の、こゝろもちうすくしてもじが
紅色でさくあるべきものなり。
口の名目である。　さくらの
心ぜのこゝろ。
まさきえてたるべきなり。
つゝ落紅あるべきなり。
の三味なるべし。
○濃紅（カンコウ）　○濃紅梅（カンコウバイ）の濃
紅の花　一名濃紅梅ともいふ。
さくらの紅色なるべし。
中うすき濃。

○赤開紅（ゴカイコウ）　開らかぬうちに紅色を示す、ほゝ赤い所で色がきくらゝて高く見えるもの。八重の大輪。

○江南（カウナン）　紅色で八重、花びらたゝなくして白の差す方で、あるもの。上品なもの。

○白　紅色で花弁八重、花きくて下を向くて咲くもの。稀富貴なるものゝ殺ぎて しくこゝろの事を殺ぎ、あとよこゝろ、又ゆるぶ　ゆるぶ　ゆるぶ。

○座論（ガロ）　たつて花、実ると
で云、三つの　ろくろく集まるく出る
ます、紅、白、ハ本、一本、さし
つある。　花のみ　ろくろくの
と花ぐろ　さこと　実のみ　ろくろく
こ生ろ　ろくろくと　実座論の（ガロ）　如えの。
○座伽羅木（ザクロ）
○蜜蜂木（ユニアラマイ）　ろくろく花
ぐろ　○陰名
○三宝木（ヒンビマー）　ろくろく実
ぐろ　の陰名
○鶯宿木（アラレニクバイ）　ろくろの鳥
の鳴ろ　ろくろく　ろくろ　ろくろ　ろくろ　宮の祭　の良

の歌を故事にして行なはれるものであるが、実際宣名らしい。極点本節として、ゆるやかに、白拍子の舞で、一種しゅん、花の香を珠すゝんで行くと言ふ。伝ふるの、ひとぶしの後のてを名品とするわざの所作を特色と示すこゝろ。

もう所で、一種しゅんしゅんで、そゝる陽を以て行くの白拍子ぶりとでゝる。香がこゝろすゝめて来るまゝ、その所

○[illegible]　白梅の花。

[illegible]　木ゞ柳の[illegible]

○鶯梅（[illegible]）　実ハ不[illegible]。　[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○風行[illegible]　以上[illegible]歌を集

[illegible]て歌[illegible]。

○[illegible]　莫作扶、[illegible]歌

玉集の[illegible]

「[illegible]」の[illegible]諸[illegible]て歌[illegible]。

[illegible]

（歌を集）

○かつらぶき　葉陰にかくれて咲く花、梅の異名。「つぼみて春を待ちかねて咲くらん」

○ふるさと　梅の異名。「春の来る里」

○みどりの花　梅の異名。「みどりの花、梅の異名。」

○花の兄　梅の異名。「春の来る里」

○花の魁　梅の異名。「春の来る里」

○雪の華　雪の中に咲くこと。「雪の中に咲くこと」

○梅の宿　梅の異名。「山梅の宿」

○梅の花　梅の異名。「山梅の宿」

○梅の花　梅の異名。「山梅の宿」

○梅の花　梅の異名。「山梅の宿」

異名。―「ウグイス」の鳴くころ、野に草の花のいろいろ咲くころ、梅の花のいろ白く

○うめぐさ　「梅豆山家賦」に

つゆ吉うの句に、梅の開くのを言ふ事ばかりの意。

さて、すべてちと梅を詩にとりこんでいる。

○梅花横斜　明の王貞白の詩「梅

影横斜水清淺、時聞香至動月黄昏」

101

に、梅の花の異名のうちに

つゆ吉の句、梅の花の異名のうちに

(十二)春の書

〔題目〕立春、鶯、梅、五題共通。

（あ）（甲）

ほのぼのと
けさ見ぬ色の
はつはるの
なごり惜しき
梅ぞ香に
こもりぬる
はるかぜの
ふくにつけて
いとゞまた
いつよりまさる
人ごころ
あらそひかねて
ぬるがうの

（い）

風ふくにつけて
あらそふ
はるかぜの
ふくにつけて
鶯の
言ふ
はつはるの
いつよりまさる
人ごころ
あらそひかねて
ぬるがうの

しづかなる
雪ちらよる
[illegible]
[illegible]
氷柱
いけみづに
[illegible]
のこる雪
ほのぐらく
てぶちの
[illegible]
ほろこぼる
水ちりて

[illegible]
[illegible]
あるてのて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初雪
きえぬるは
雪のうへの
はるの雪
風ふく
弥のうへ
なりのうへとも
花ぐもに
ぐ行く
みくにの
山あらし
香椎
はづのく

ゆくぶる
はるこえ
ふるやまの
花を
えぐ
ふ井の
人
笠に
なりの
春ぐ
こ
ふ
山

月見すて
行くさきを
とぶとぐと
夜をこめて
鳥のそらね
はかるとは
関もるうち
はつあきの
あふさきに
木ぐらして
ちりのこる
白萩と

けふ上ぐぐらる
ほのかなる夢の
ふる郷まつ
ぐらだにも
動く井のみず
かるるまで
あらばこそ
絶ちわかるる
わかるるまで
知らるるまで
とちらるる
白萩とて
紅葉のいろ

〔應用〕

[illegible]（五五）

[illegible]（五六）

[illegible]（五七）

[illegible]（五八）

[illegible]（五九）

[illegible]（六〇）

[illegible]（六一）

[illegible]（六二）

[illegible]（六三）

[illegible]

（六五）

[illegible]

（六六）

[illegible]

（六七）

[illegible]

（六八）

[illegible]

（六九）

[illegible]

（七〇）

[illegible]

（七一）

[illegible]

（七二）

[illegible]

（七三）

[illegible]

（七四）

[illegible]

（七五）

[illegible]

（七六）

[illegible]

（七七）

[illegible]

（七八）

[illegible]

（六三）

[illegible]

[illegible]

（六四）

[illegible]

[illegible]

（六五）

[illegible]

[illegible]

（六六）

[illegible]

[illegible]

（六七）

[illegible]

[illegible]

（六八）

[illegible]

[illegible]

（六九）

[illegible]

[illegible]

（七〇）

[illegible]

[illegible]

（七一）

[illegible]

[illegible]

（七二）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（八二）

[illegible]

（八三）

節分の　[illegible]

[illegible]（五五）

[illegible]（五六）

[illegible]（五七）

[illegible]（五八）

鬼[illegible]

[illegible]（五九）

（六〇）

[illegible]

[illegible]

（八六）

ほとゝぎす

ほとゝぎす

くも鈴蓮

さ

なすみて

さ

霜のいろ

うゝ

霜

さ

ろいろの

さ

（五五）

（五五）

（五五）

（五五）

（五五）

（五五）

（五五）

（五五）

まるうしのうし　ゆきとまるの（五五）

くるとくるとかたこいし（五六）

爪てえて　まるとみが（五七）

鐵のつけの　ちかのつけ（五八）

ひらをいでうしの　うしのうの（五九）

うしのいつ　へくへくしこ（六〇）

（六一）　さまをうして

ちらちらかた　こしぐるとこと（五五）

けるしぐす　つりいと（五六）

さまるかつ　こうちかけるし（五七）

あしのまと　雨降るうしる（五八）

きくうちよみる　ねまとふ（五九）

うる紙あらいで　はりてもたいて（七）

（三）

ぢうらの　しらき　とめ　こんの

（三）

うきて　ふくろ　ふくて

（八）

わらら　ふくて　てをすさ　ふくて

（十三）

ぢうらで　ちる　ふる　うぐいすする

（十四）

あらうて　くしこ　（五）

ぐるて　こころ　ます　（四）

つまづく　ものを　（十八）

折ふしにつけて　いろいろ
こ）
雪のまがきの　ながめ
いろいろ
ゑ）
（七六）
（七七）
（七八）
（八〇）
（八二）

（三）春の風

春の風一切の物を解くと言ふ。冬枯れの野山を開くもの、花をあらはすもの、人間の心の中に抱懷されて居る春の主宰者である。春の色味は、冬の枯れ、寒さ、暗さ、悲しさなどを忘れさせる。

（十二）

春のころ　ふる雨
明るくなるにつれて
春の風物のうるおひ。

〔備考〕

○うつみのこと。

○うつみのあるこころのうつみのこころのうつみの真理

みの問題のうつみの定義のうすみの彼

○[illegible]の[illegible]　仙人の[illegible]
形容。仙人[illegible]を含み、露を吸ひ
て[illegible]古仙[illegible]
る。

○[illegible]の洞　仙洞即[illegible]
[illegible]。

○[illegible]　[illegible]の名。―後
撰集、[illegible]山[illegible]の花の香[illegible]
[illegible]春[illegible]
[illegible]。

○[illegible]の洞　[illegible]の[illegible]
[illegible]洞[illegible]
[illegible]。

○うすぐもり
○あさぐもり
○ゆふぐもり
○よるぐもり
あさまだき
○ひるまへ
ゆふ方。
○ひるすぎ
○ゆふぐれ
○よるまへ
○よるすぎ
○ひるの時
○ひるの時
○ひるの時

のほうこうみ　ひらくるつくるみて
ゆらゆら　春てふ　そのれい。

（八）遊絲（ゆげロウ＝イトユゲ）

春のころ、天気のよい日、日光のほうきで空中をはいてゆくもやの様の動く物。

（五）

（七）

るるるるん
るるるるる

〔語句〕春の風、霞、遊絲、三要共通の

てゆくゆく

霞心

春の花の匂ひ
春の月の光
春の雨の
春の山の
春の野の
春の海の
春の空の
春の夜の
春の夕の
春の朝の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

〔雁〕

〔月〕

（八五）

（八六）

（八七）

（八八）

（八九）

（九〇）

（九一）

（九二）

（九三）

（九四）

（九五）

（九六）

（九七）

（九八）

（九九）

（八〇）

（八一）

（八二）

（八三）

（八四）

[illegible]

（六二）

[illegible]（五五）

[illegible]（五六）

[illegible]（五七）

[illegible]（五八）

[illegible]（五九）

[illegible]（六〇）

[illegible]（六一）

[illegible]（六二）

[illegible]（六三）

[illegible]（六四）

[illegible]（六五）

[illegible]（六六）

（九）若草

すぐる春の時を待てすぐることを若草という。すでに春とくれば、夏もまた行くべきものなれば、行くべきものの来るべきものの来るべきものの来る

やうに思ふて、えらそうにしてゐる。

それは、同じ為に無駄に

なることである。

「なぜ」と問ふ。

「伊勢物語」から

「見ずもあらず見もせず」

と人の行ぶんるとふ。

上ゝくつるるるこゝ

無駄、ゝゝゝ物ゝゝ

「なぜ」ゝゝゝ

つゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ。

「ゝゝゝゝ」と問ふ

ゝゝゝゝ。

（十）つぶ穂

つの本とまも林

いまの枝と切り取れば、

しつぶ　すりこそ

ちりこの傷こそ

御の有。

つぶ木　しこそ

（十一）芦づつの

芦のこつ芽とあ

さぐ後こそ

（十二）葛の若葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]　○向玉楷　○玉楷　以
[illegible]
[illegible]
○鳥[illegible]　○[illegible]
○仲[illegible]　以上[illegible]
[illegible]
○[illegible]　以上[illegible]
白地[illegible]
○行字（[illegible]）○[illegible]　以上[illegible]
[illegible]
（十五丁）
[illegible]
[illegible]

[illegible]

十三 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

野の[illegible]

雪[illegible]

[illegible]

[illegible]

みなもとの
ときつね
ときつねの
ときつねの
ときつねの

見るとのみ
ゆるさんと
あるてぶん
のうらぶる
えめるを
いわてぶの
るとゆさん

（十七）新柳（ヤナ）

〔備考〕

○やるぶのを　柳の枝のもてる
ぶらぶら　ぶらぶら　ぶらぶ
見えるのと　ひろ　ぶ　ぶ
語。

ちらちらぶ
ぶらぶらぶ
てるうぶ
手ぶに縛ぶ
えめるぶの
うぶぶ
くぶみ頃て

○[illegible]の腰の[illegible]腰　美人の腰のことを云ふ。[illegible]細くしなやかなるもの。漢代の風俗、[illegible]折る。[illegible]代の風俗、[illegible]折りて[illegible]を折りて再会を期す。[illegible]の[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

千[illegible]

○[illegible]

[illegible]孫文寶の故事　若き[illegible]

義——楚国元昭王、「孫文寶別洛陽

吉大夫。　左右得一少屋安止母。然
後八条、綿揚桝屋尚、以写給。
右ハ吹て、夫本集、公朝ニ
身ニ　ハ　ハ　ハ

水辺に生ず、枝く無へども、葉ハ円くして尖ることが多しと。葉ハ互生する。

緊なすもの。

のかくだいもの。すべて川辺に多くはえる。柳のこと。

のかくだいもの。すべて門辺にある柳。

のけやなぎ。柳にかはりてはえる類。

椿なども。

のけやなぎ。漢名、白楊（ハクヨウ）

牧ハ山野にすべて、苦竹雲、

言ハ白いもの有る。春ハ徳する

こと有ることを。

木ハ材にもなるべ

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

答へられる句。

（十）芋花（はな）　銀のうぶ毛。

白芋（はく）の花。

ゐるもの、銀のうぶ毛のすぐ見える所、

が、この吟題となる。

（十九）蒔（ウキ）　浮き木の浮彫であるが、吟料

しても他の物と違ふ。

穴のあるものを、そこ

を答へる義なるのみ。

（三十三）三月三日　桃の花、女の子

いはゆる上巳。

まつりとして、雛人形を飾。桃の

節句にて。

〔語句〕柳、雪花、海、三月、雪景色、通、明

（五）

（六）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつくしみの

〔雇用〕

ものいみなど（五オ）

ものいみなど（五オ）

ものいみなど（五オ）

[illegible]

（八三）

[illegible]

（八四）

[illegible]

（八五）

[illegible]

（八六）

[illegible]

（八七）

[illegible]

（八八）

[illegible]

（八九）

[illegible]

（九〇）

[illegible]

（九一）

[illegible]

（九二）

[illegible]

（九三）

[illegible]

（九四）

[illegible]

（九五）

[illegible]

（九六）

[illegible]

（九七）

[illegible]

（九八）

[illegible]

（九九）

[illegible]

（九十）

[illegible]

露のもるゝ　くさゝ繁きて（さ七）
しらつゆ　みづの後（八二）
結ぶ　つゆ　はる（八三）
あをあを　つらなる（あ五）
のどかなる　ちぢゝみ（か五）
きりぎす　ちぢゝる（あ七）
ちゝ　ぬぐ　ちり（あ七）
ぬゝ　髪　ちぢゝる（た五）
たゝ　ちぢみ（た五）
ちゝ　ぬ　ちゝみて
（七七）
いとゝ　ちゝみて　るみて　ちゝみ（七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（七）

世の中を　うとうとしくも
さびのうち　のどかにすみて
みるもの　あるもの　ものの
ちばしも　すべてこれ
時のながれ　無常
ながめ　ながめて
あれば　ものごとに
（七七）
つれづれとして
（七八）

（八〇）

ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠤᠷᠤᠭᠠᠨ ᠳᠤᠴᠢᠶᠠᠨ᠂

᠂ᠠᠷᠪᠠᠨ ᠳᠥᠴᠢᠶᠡᠳᠦᠭᠡᠷ᠂

᠂ᠨᠢᠭᠡᠨ ᠳᠥᠴᠢᠶᠡᠳᠦᠭᠡᠷ᠂

᠂ᠭᠤᠷᠪᠠᠳᠤᠭᠠᠷ᠂

᠂ᠳᠥᠷᠪᠡᠳᠦᠭᠡᠷ᠂

᠂ᠲᠠᠪᠤᠨᠳᠤᠭᠠᠷ᠂

᠂ᠵᠢᠷᠬᠤᠭᠠᠨᠳᠤᠭᠠᠷ᠂

᠂ᠵᠢᠷᠬᠤᠭᠠᠨᠳᠤᠭᠠᠷᠪᠠᠨᠳᠤᠭᠠᠷ᠂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] و

(۲۲)

[illegible] و [illegible]

(۲۳)

[illegible] ، [illegible]

(۲۴)

（三十二）桃（モモ）

「備考」

○源平桃（ゲンペイモモ）　俗名、白日桃。

（シロヒモモ）、また、二色桃（ニシキトウ）。桃

の名称、その花びらが白く、

花びらに紅色を交じえる。

本邦で、別名、ほとけ桃（モモ）、さ

の毛桃（ケモモ）

実が丸くて毛

の。花びらの色がうすくつ

長い。

の冥桃（サモ）　俗名、毛桃（トウ）。

武陵桃

桃。桃。桃。

桃の異名。西王母の別名。

○西王母（ウヤクボ）　支那の古伝説に仙女の園に桃が多く、三千年に一度実を結ぶとの事。

○桃園の誓　「タヾ今日ハ」と言ふて桃園の故事の桃園を下敷にウヤマシく言ふたもの。

さて、さて軍に桃のある国のこと、
てるてる青道名詞の転化国のあるの
場でもてるてるやうもモノ、「のこの
稜のである。

てるてるの三つの故事、てるてる
文和の三つの時代のあるの
う、劉備と関羽と張飛との三人が
桃園でてるてる和共てるてる
の誓をてるてる義を結ぶ、てるて
ぶ今でいう義兄弟をちかう、
侯世、てるてる。「桃園の義」と
てるて出て、何てるてるる場合てる用
てるて。

○桃林（リン）

[illegible]

桃林の陽の半を桃林の陽と称す。

桃林の陽の一部。

桃林の陽の半を桃林の陽と称す。

桃林の陽の半を桃林の陽と称す。

[illegible]

桃林の陽と称す。

(三二)連翹(レンギョウ)

和名で、いぬちぶ、つるちぶ、
てぜ。 枝のながくこゝろ間に黄色の花。
三月の節句、ゆるつて桃、椿など
を飾つて、ゆるつて雛をかざる。
菖蒲、ちまき、一般
のつゝかわつゝみよりはなし、さま
で長ぐ〜ちつて行ぐ。 ぐ〜ぐ〜ぐ〜
うつ〜。 ぐ〜ぐ〜ぐ〜 菖蒲、下
るすゝ〜ゝる俳句に、ゝゝを鶯の
鳴法〜て用つ〜ゝ。
てゝの詩 ゝ 鶯鳴林杪野陰垂。 軽暖軽
寒近午時。 欲試山行也恐雨。 連翹

花屋堂敲詩。

（二十三）連華芝（ヒシ）

春の野ゆくゆくゆくゆく。春江

色で、花びらのあちこち出る輝くが

建華の似くくくくくの。

人ぷぷぷるくくくくくの名。すみれ、れ

の。ちちちち。

（二十四）春分（シュン）○彼岸（ガン）春

分くニ十四気の一、すのうちち春す

ケるくくくくくくく、此日ガ昼夜同一

の時なる。

彼岸（ガン）（彼岸、岸）の略、

式ちちち。春分の日と彼岸の中

日の（二月二十六日）夕、ようやく着いた。翌日、後
の三日、合計十日ほどかかって彼等を
の国に掛かるのである。今の世上
ではこれを、りくとの名称を彼
岸中、この名称からの名で食物を調く
て知る人ならば知ることである。吟味
の材料にしてこれを加味する。
しかるものである。

金剛経の語る「生死の此岸」、但
槃を彼岸、煩悩を中流とする。
すなわち人間生物である百六川の
此岸であるとこの居るのに同
じくこれで、ようやく川をこえ来る

[illegible]

いろは出で迷ふ[illegible]

うゐのおくやま。煩悩[illegible]

ハ、僧ひしもせす[illegible]。一見

者ならぬ[illegible]得[illegible]、いま

なる彼岸即ちかの[illegible]。即ち[illegible]

ふもとに[illegible]。[illegible]

本分が完全する[illegible]。

佛法で[illegible]教[illegible]。世

俗で[illegible]、[illegible]通[illegible]の立場[illegible]知

[illegible]。[illegible]の日[illegible]同僚

[illegible]の[illegible]

[illegible]

る。

此時分の男同士、常陸地方の
者などは三階節の
そばなどの家宅附近
は散在する。その中の物
で、上級の、田舎に住む
ものは、蔵がある。
隣接、隣り同士の者は
る。

第一、そばは、倍合の食
物を行のうちにくるまれ、
その食物は、ほぼ精進もの、即
肉類を用ひないものを

ある。

四十五　遅日（ちじつ）

遅日とは春の日の長くてのどかなる事。

くつろぎ　ゆるやかに　ゆるる

ゆるゆる感覚をうごかす。

ゆるぶ　ゆるぶ　ゆるぶ

緩慢なる意味。

遅日　ゆるぶ　ゆるぶ　ゆるぶ

ゆるぶ　ゆるぶ　ゆるぶ

ゆるぶ　ゆるぶ　ゆるぶ

（語句）桃　連翹　遅日　春の日の彼方　緩やかな

（七）　遅日五

みちくさの　桃咲くまへの　桃の花

みちくさの　桃咲くまへの　桃の花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〔應用〕

みちのくに　ゆるす（五五）
みちのくに　ほどのてら（五五）
みちのくに　ゆるす　楓の（五六）
ゆるすべし　みちのくに（五七）
呼くすの　いろはもみぢ（五七）
さくらの　楓　ゆるす（五七）
みちのくに　桃（五五）
ゆるすの　もみぢ（五五）
野ざらけ　2代　びべいしゅう（六〇）
びべいしゅう　色ぶくろ（六〇）

[illegible]

（八三）

[illegible]

（八四）

[illegible]

名[illegible]　[illegible]桃[illegible]（五五）

雪[illegible]　[illegible]桃[illegible]（五五）

[illegible]　[illegible]（五六）

[illegible]（五七）

[illegible]（五八）

[illegible]（五九）

（六〇）

[illegible]（六一）

（ナ）

そもそも西王母（八六）

しめのもの　そもそも山路（八六）

しめのもの　そもそもの（五五）

もとでの　義をもとめ（五五）

西王母　行の女神つの（五七）

神女　西王母（五七）

もの　そもそもに　ひぐ行心（七

五七

桃林のつと

そもそもに　桃林のつと

そもの　そもそもの（七

（ナ）

そもぞ　そもそもに　桃のつと（七

さ

物ごとにつけて　人々愛でて（七

さ

花ざかりいそぐ　人さそふ（六三）

小春十代八十代

（八三）

そのこの　よろこびて（五四）

ちるぐちと　さそふ（五五）

桃ごとく　ちるもの（五六）

ちるもの　桃折りて（五七）

三月三日童子の（五七）

ちるもちぐ　もの花（五八）

不及不取　ちるもの　ちきりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桃花源記

武陵の人[illegible]

[illegible]

さ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野のかくれつ

七

わくらゝの秋と

六

ちるもみぢ

五

あらしふく

つゝれなく

ちるもみぢ

わけてゝ

人をいとふも

ちるぬれの

四

いろ世ゝて

いとゝ秋て

野べ行て

ちるもの

ちるもの

ちるもの

（七十）
花ぞ
さ

（八十）

年さそ

（八十一）

ちと人と
こさみの
と

（七十二）

（七十三）

[illegible]（七五）

針の峰（七六）

[illegible]（七七）

[illegible]（七八）

[illegible]（七九）

[illegible]（八〇）

[illegible]（八一）

[illegible]（八二）

[illegible]（八三）

[illegible]（八四）

[illegible]（八五）

[illegible]（八六）

[illegible]（八七）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

(一)春雨(レユニウリー)

春雨、砂谷してて花もつらつらと而
そそそそそそ。春のそらそら
降そそそそそそ、草木の芽
そそそそそそそそそそそ。そそそそ、
そそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそ
そ

ぶつ日とゝみ為の日として仏祖恩に
入るしるべらでらい。ゆえに
日を為る日の一の行念のもの
て、えらう為る門を開かてゝ
しるべの、世の、ゆゞらい
つそら信じます時に円えて
心を改め、為の日として時に
法をてゝつゝろ。

(見)
仏花(ブッカ)

「御名」

仏の花。彼岸

の彼岸(ヒガン)
のこゝろ、即ち三月二十日のゝう
るゝ迄。花刈ゝ合して

一名、[illegible]

○山野に見なれたる[illegible]

ら。[illegible]

て強く咲く。[illegible]

○[illegible]の一

種。もとは州の山、[illegible]

[illegible]。花びし高みに合

ひ、葉もまた青みを帯び、花

び[illegible]。

○[illegible]

花さかしく、[illegible]の花の

[illegible]。又[illegible]

ごとく見[illegible]

[illegible]

である。

○ちぐさ　木の名。

○ちぐさ　一名、ちぐさくさ。

○ちぐさ　花の色の一定せざるもの。

で、一定せざる色を、色々に染まるもの。

ちりちりに、ちりぢりに、雲霧などの如く、

皮、材、つゝて物に細工する。

用ゐる。

○ちぐさ、きぐさの一名。

しちくさ　同上。

○ちぐさ　花の黄ばむもの。

多くさいまつる。

○ちぐさ　ちぐさの一名。

○ちらくさぶら
の桜さくら。
○つとさぶら
○くさぶらう
ぶらう。
すぐて一年経る
こぶらう。
八年ぶるのちぶ
あれさくらさくらさくら。
いとくるしく遠ざかり
のまに
のくすぶらう
ちぶ
うすすき待ちてまつ
の花。花ぶ
「ぶらう」
○ぶらう
すぐて八年経る

てらつきもの。

のなまみぐさ

のほそぎくさ

くさの。

花のたちのしたもちつの。

のいろ。ぐさ

たかいこゑ。すると

くろく、えらんどぐさのそ

いろの柿。

のあをぎぐさ

咲きさかりのもく蓮の春。すばしさ

うつる。

ちと開けたもの。きぐ

のいっぐさ

すべて、くるうあ

ふ。

柿の修業名で、

らい。

○緋櫻（ヒザクラ）　やはり桜の種類。七重色すべてこれのみです。

○伊勢ぜんまい　緋櫻の花。一切の花のなかでもっとも近しいものです。咲く時分

もおなじ（同じ）ころ厚張（名）に近くさて、するとも伊勢の名が付いたとかいうこと。

○五月雪蒙（ゴゲツザウ）　八重ばかりでもじゃのようにたくさんです。仲通

一と五月雪は蕾ともに白くかくれてしまいます。蒙を砂糖。蒙の寄せてもらい。蕾

と花と通ってやはりもっぱらしいもの。

で、青毛、栗毛、鹿毛、月毛、芦毛、
黒毛、斑毛、の二種の毛、その淡い
青毛（ゴヒツ）、白いものを白毛（ブ
ンヒツ）という。

○栗毛　黒ずんだ赤色をみ
ふくむ。　つねの栗色
とうの　とくに　ふ
いるしたちがつて
命でもあります。

いとこ　そ
の　ゆ　ま
がまだ　郷　と
ゆ　ふ　ま　尾　定
馬雲珠　駿

○ゆもりづき　櫻の名の一。

黄仏桜　ちらでもいとはるゆのみどりとそめしはるの

○あづまぐさ　桜の名の一。

つあづまぐさ　いうる人のこころにきてらしうらやまし前のこと

○ふりのうぐいす　（黄仏桜）

○乃ぶけぐさ

○左近の桜　いろ〳〵の名称紫宸殿

南殿の桜と左近の桜と行くこと。　ろ

ちら紫宸殿の簾の角にあ

[illegible]。右遊。橋を渡りて行く。

[illegible]の宮

伊勢の国[illegible]

[illegible]道。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

語句　春雨、春月、櫻花
三題共通

（五）

（七）

晴

1915

みるとしら
ぬ海のも
とにいつ
しかの
山路の
ものかな
まろこそ
ものうた
てたれ
ふるさと
のはな
ものあり
花のさと

なるこ
ゆるる
いとう
たてに
たるせ
そなるの
咲そうす
ゆめ
かりそで
ふるさと
風
ふるさと

〔歴代〕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（七七）

[illegible]

（七八）

[illegible]

[illegible]

（七五）

（七六）

（七七）

（七八）

（七九）

（八〇）

（八一）

（八二）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みなかた四（よし）
あがりなれる（よし）
ちかくなりて
（よし）
くるまそてを
（よし）
うちかけの
（よし）
うちかけの
（よし）
うちかけの
（よし）
うちかけの
（よし）

みてもぐさ　て和らぎて　（五七）
うらうらのみ　待ちかねて　（五八）
そのうらうらて　しづごころ　（五九）
そのうらうらぐら　はるのうるはしき
（六〇）
ぬるうるはしき　ぬる
（六一）
の、ちるはるぐさ　うらぐさの
（六二）
ちるはるぐさ
（六三）
やうやうに　ちるはるぐさ
ちるもの　ぬるはるぐさ　（六四）

花散れつゝ　鈍日(にち)

つもるかに　いつかもるる(五六)

あらしそそ　枝をそなてつゝ

春・晴・（ヒマレ・テリノ・ハルノアカツキ）

春・眠・（ヒユンミン・ハルノネフリ）

春・夜・（ヒヨヨヒ・ハルノヨ）

春・語・（ハルノサヤ・ハルノサヤ）

（五五）

（五六）

（五七）

（五八）

（五九）

（六〇）

（六一）

（六二）

（六三）

（六四）

（六五）

（六六）

（六七）

（六八）

（六九）

（七〇）

（七一）

（七二）

（七三）

（七四）

（七五）

（七六）

（七七）

（七八）

（七九）

（八〇）

（八一）

（八二）

（八三）

（八四）

（八五）

（八六）

（八七）

（八八）

（八九）

（九〇）

（九一）

（九二）

（九三）

（九四）

（九五）

（九六）

（九七）

（九八）

（九九）

（一〇〇）

（一〇一）

（一〇二）

（一〇三）

（一〇四）

（一〇五）

（一〇六）

（一〇七）

（一〇八）

（一〇九）

（一一〇）

（一一一）

（一一二）

（一一三）

（一一四）

（一一五）

（一一六）

（一一七）

（一一八）

（一一九）

（一二〇）

（一二一）

（一二二）

（一二三）

（一二四）

（一二五）

（一二六）

（一二七）

（一二八）

（一二九）

（一三〇）

（一三一）

（一三二）

（一三三）

（一三四）

（一三五）

（一三六）

（一三七）

（一三八）

（一三九）

（一四〇）

（一四一）

（一四二）

（一四三）

（一四四）

（一四五）

（一四六）

（一四七）

（一四八）

（一四九）

（一五〇）

（一五一）

（一五二）

（一五三）

（一五四）

（一五五）

（一五六）

（一五七）

（一五八）

（一五九）

（一六〇）

（一六一）

（一六二）

（一六三）

（一六四）

（一六五）

（一六六）

（一六七）

（一六八）

（一六九）

（一七〇）

（一七一）

（一七二）

（一七三）

（一七四）

（一七五）

（一七六）

（一七七）

（一七八）

（一七九）

（一八〇）

（一八一）

（一八二）

（一八三）

（一八四）

（一八五）

（一八六）

（一八七）

（一八八）

（一八九）

（一九〇）

（一九一）

（一九二）

（一九三）

（一九四）

（一九五）

（一九六）

（一九七）

（一九八）

（一九九）

（二〇〇）

（二〇一）

（二〇二）

（二〇三）

（二〇四）

（二〇五）

（二〇六）

（二〇七）

（二〇八）

（二〇九）

（二一〇）

（二一一）

（二一二）

（二一三）

（二一四）

（二一五）

（二一六）

（二一七）

（二一八）

（二一九）

（二二〇）

（二二一）

（二二二）

（二二三）

（二二四）

（二二五）

（二二六）

（二二七）

（二二八）

（二二九）

（二三〇）

（二三一）

（二三二）

（二三三）

（二三四）

（二三五）

（二三六）

（二三七）

（二三八）

（二三九）

（二四〇）

（二四一）

（二四二）

（二四三）

（二四四）

（二四五）

（二四六）

（二四七）

（二四八）

（二四九）

（二五〇）

（二五一）

（二五二）

（二五三）

（二五四）

（二五五）

（二五六）

（二五七）

（二五八）

（二五九）

（二六〇）

（二六一）

（二六二）

（二六三）

（二六四）

（二六五）

（二六六）

（二六七）

（二六八）

（二六九）

（二七〇）

（二七一）

（二七二）

（二七三）

（二七四）

（二七五）

（二七六）

（二七七）

（二七八）

（二七九）

（二八〇）

（二八一）

（二八二）

（二八三）

（二八四）

（二八五）

（二八六）

（二八七）

（二八八）

（二八九）

（二九〇）

（二九一）

（二九二）

（二九三）

（二九四）

（二九五）

（二九六）

（二九七）

（二九八）

（二九九）

（三〇〇）

（三〇一）

（三〇二）

（三〇三）

（三〇四）

（三〇五）

（三〇六）

（三〇七）

（三〇八）

（三〇九）

（三一〇）

（三一一）

（三一二）

（三一三）

（三一四）

（三一五）

（三一六）

（三一七）

（三一八）

（三一九）

（三二〇）

（三二一）

（三二二）

（三二三）

（三二四）

（三二五）

（三二六）

（三二七）

（三二八）

（三二九）

（三三〇）

（三三一）

（三三二）

（三三三）

（三三四）

（三三五）

（三三六）

（三三七）

（三三八）

（三三九）

（三四〇）

（三四一）

（三四二）

（三四三）

（三四四）

（三四五）

（三四六）

（三四七）

（三四八）

（三四九）

（三五〇）

（三五一）

（三五二）

（三五三）

（三五四）

（三五五）

（三五六）

（三五七）

（三五八）

（三五九）

（三六〇）

（三六一）

（三六二）

（三六三）

（三六四）

（三六五）

（三六六）

（三六七）

（三六八）

（三六九）

（三七〇）

（三七一）

（三七二）

（三七三）

（三七四）

（三七五）

（三七六）

（三七七）

（三七八）

（三七九）

（三八〇）

（三八一）

（三八二）

（三八三）

（三八四）

（三八五）

（三八六）

（三八七）

（三八八）

（三八九）

（三九〇）

（三九一）

（三九二）

（三九三）

（三九四）

（三九五）

（三九六）

（三九七）

（三九八）

（三九九）

（四〇〇）

（四〇一）

（四〇二）

（四〇三）

（四〇四）

（四〇五）

（四〇六）

（四〇七）

（四〇八）

（四〇九）

（四一〇）

（四一一）

（四一二）

（四一三）

（四一四）

（四一五）

（四一六）

（四一七）

（四一八）

（四一九）

（四二〇）

（四二一）

（四二二）

（四二三）

（四二四）

（四二五）

（四二六）

（四二七）

（四二八）

（四二九）

（四三〇）

（四三一）

（四三二）

（四三三）

（四三四）

（四三五）

（四三六）

（四三七）

（四三八）

（四三九）

（四四〇）

（四四一）

（四四二）

（四四三）

（四四四）

（四四五）

（四四六）

（四四七）

（四四八）

（四四九）

（四五〇）

（四五一）

（四五二）

（四五三）

（四五四）

（四五五）

（四五六）

（四五七）

（四五八）

（四五九）

（四六〇）

（四六一）

（四六二）

（四六三）

（四六四）

（四六五）

（四六六）

（四六七）

（四六八）

（四六九）

（四七〇）

（四七一）

（四七二）

（四七三）

（四七四）

（四七五）

（四七六）

（四七七）

（四七八）

（四七九）

（四八〇）

（四八一）

（四八二）

（四八三）

（四八四）

（四八五）

（四八六）

（四八七）

（四八八）

（四八九）

（四九〇）

（四九一）

（四九二）

（四九三）

（四九四）

（四九五）

（四九六）

（四九七）

（四九八）

（四九九）

（五〇〇）

（五〇一）

（五〇二）

（五〇三）

（五〇四）

（五〇五）

（五〇六）

（五〇七）

（五〇八）

（五〇九）

（五一〇）

（五一一）

（五一二）

（五一三）

（五一四）

（五一五）

（五一六）

（五一七）

（五一八）

（五一九）

（五二〇）

（五二一）

（五二二）

（五二三）

（五二四）

（五二五）

（五二六）

（五二七）

（五二八）

（五二九）

（五三〇）

（五三一）

（五三二）

（五三三）

（五三四）

（五三五）

（五三六）

（五三七）

（五三八）

（五三九）

（五四〇）

（五四一）

（五四二）

（五四三）

（五四四）

（五四五）

（五四六）

（五四七）

（五四八）

（五四九）

（五五〇）

（五五一）

（五五二）

（五五三）

（五五四）

（五五五）

（五五六）

（五五七）

（五五八）

（五五九）

（五六〇）

（五六一）

（五六二）

（五六三）

（五六四）

（五六五）

（五六六）

（五六七）

（五六八）

（五六九）

（五七〇）

（五七一）

（五七二）

（五七三）

（五七四）

（五七五）

（五七六）

（五七七）

（五七八）

（五七九）

（五八〇）

（五八一）

（五八二）

（五八三）

（五八四）

（五八五）

（五八六）

（五八七）

（五八八）

（五八九）

（五九〇）

（五九一）

（五九二）

（五九三）

（五九四）

（五九五）

（五九六）

（五九七）

（五九八）

（五九九）

（六〇〇）

（六〇一）

（六〇二）

（六〇三）

（六〇四）

（六〇五）

（六〇六）

（六〇七）

（六〇八）

（六〇九）

（六一〇）

（六一一）

（六一二）

（六一三）

（六一四）

（六一五）

（六一六）

（六一七）

（六一八）

（六一九）

（六二〇）

（六二一）

（六二二）

（六二三）

（六二四）

（六二五）

（六二六）

（六二七）

（六二八）

（六二九）

（六三〇）

（六三一）

（六三二）

（六三三）

（六三四）

（六三五）

（六三六）

（六三七）

（六三八）

（六三九）

（六四〇）

（六四一）

（六四二）

（六四三）

（六四四）

（六四五）

（六四六）

（六四七）

（六四八）

（六四九）

（六五〇）

（六五一）

（六五二）

（六五三）

（六五四）

（六五五）

（六五六）

（六五七）

（六五八）

（六五九）

（六六〇）

（六六一）

（六六二）

（六六三）

（六六四）

（六六五）

（六六六）

（六六七）

（六六八）

（六六九）

（六七〇）

（六七一）

（六七二）

（六七三）

（六七四）

（六七五）

（六七六）

（六七七）

（六七八）

（六七九）

（六八〇）

（六八一）

（六八二）

（六八三）

（六八四）

（六八五）

（六八六）

（六八七）

（六八八）

（六八九）

（六九〇）

（六九一）

（六九二）

（六九三）

（六九四）

（六九五）

（六九六）

（六九七）

（六九八）

（六九九）

（七〇〇）

（七〇一）

（七〇二）

（七〇三）

（七〇四）

（七〇五）

（七〇六）

（七〇七）

（七〇八）

（七〇九）

（七一〇）

（七一一）

（七一二）

（七一三）

（七一四）

（七一五）

（七一六）

（七一七）

（七一八）

（七一九）

（七二〇）

（七二一）

（七二二）

（七二三）

（七二四）

（七二五）

（七二六）

（七二七）

（七二八）

（七二九）

（七三〇）

（七三一）

（七三二）

（七三三）

（七三四）

（七三五）

（七三六）

（七三七）

（七三八）

（七三九）

（七四〇）

（七四一）

（七四二）

（七四三）

（七四四）

（七四五）

（七四六）

（七四七）

（七四八）

（七四九）

（七五〇）

（七五一）

（七五二）

（七五三）

（七五四）

（七五五）

（七五六）

（七五七）

（七五八）

（七五九）

（七六〇）

（七六一）

（七六二）

（七六三）

（七六四）

（七六五）

（七六六）

（七六七）

（七六八）

（七六九）

（七七〇）

（七七一）

（七七二）

（七七三）

（七七四）

（七七五）

（七七六）

（七七七）

（七七八）

（七七九）

（七八〇）

（七八一）

（七八二）

（七八三）

（七八四）

（七八五）

（七八六）

（七八七）

（七八八）

（七八九）

（七九〇）

（七九一）

（七九二）

（七九三）

（七九四）

（七九五）

（七九六）

（七九七）

（七九八）

（七九九）

（八〇〇）

（八〇一）

（八〇二）

（八〇三）

（八〇四）

（八〇五）

（八〇六）

（八〇七）

（八〇八）

（八〇九）

（八一〇）

（八一一）

（八一二）

（八一三）

（八一四）

（八一五）

（八一六）

（八一七）

（八一八）

（八一九）

（八二〇）

（八二一）

（八二二）

（八二三）

（八二四）

（八二五）

（八二六）

（八二七）

（八二八）

（八二九）

（八三〇）

（八三一）

（八三二）

（八三三）

（八三四）

（八三五）

（八三六）

（八三七）

（八三八）

（八三九）

（八四〇）

（八四一）

（八四二）

（八四三）

（八四四）

（八四五）

（八四六）

（八四七）

（八四八）

（八四九）

（八五〇）

（八五一）

（八五二）

（八五三）

（八五四）

（八五五）

（八五六）

（八五七）

（八五八）

（八五九）

（八六〇）

（八六一）

（八六二）

（八六三）

（八六四）

（八六五）

（八六六）

（八六七）

（八六八）

（八六九）

（八七〇）

（八七一）

（八七二）

（八七三）

（八七四）

（八七五）

（八七六）

（八七七）

（八七八）

（八七九）

（八八〇）

（八八一）

（八八二）

（八八三）

（八八四）

（八八五）

（八八六）

（八八七）

（八八八）

（八八九）

（八九〇）

（八九一）

（八九二）

（八九三）

（八九四）

（八九五）

（八九六）

（八九七）

（八九八）

（八九九）

（九〇〇）

（九〇一）

（九〇二）

（九〇三）

（九〇四）

（九〇五）

（九〇六）

（九〇七）

（九〇八）

（九〇九）

（九一〇）

（九一一）

（九一二）

（九一三）

（九一四）

（九一五）

（九一六）

（九一七）

（九一八）

（九一九）

（九二〇）

（九二一）

（九二二）

（九二三）

（九二四）

（九二五）

（九二六）

（九二七）

（九二八）

（九二九）

（九三〇）

（九三一）

（九三二）

（九三三）

（九三四）

（九三五）

（九三六）

（九三七）

（九三八）

（九三九）

（九四〇）

（九四一）

（九四二）

（九四三）

（九四四）

（九四五）

（九四六）

（九四七）

（九四八）

（九四九）

（九五〇）

（九五一）

（九五二）

（九五三）

（九五四）

（九五五）

（九五六）

（九五七）

（九五八）

（九五九）

（九六〇）

（九六一）

（九六二）

（九六三）

（九六四）

（九六五）

（九六六）

（九六七）

（九六八）

（九六九）

（九七〇）

（九七一）

（九七二）

（九七三）

（九七四）

（九七五）

（九七六）

（九七七）

（九七八）

（九七九）

（九八〇）

（九八一）

（九八二）

（九八三）

（九八四）

（九八五）

（九八六）

（九八七）

（九八八）

（九八九）

（九九〇）

（九九一）

（九九二）

（九九三）

（九九四）

（九九五）

（九九六）

（九九七）

（九九八）

（九九九）

（一〇〇〇）

（一〇〇一）

（一〇〇二）

（一〇〇三）

（一〇〇四）

（一〇〇五）

（一〇〇六）

（一〇〇七）

（一〇〇八）

（一〇〇九）

（一〇一〇）

（一〇一一）

（一〇一二）

（一〇一三）

（一〇一四）

（一〇一五）

（一〇一六）

（一〇一七）

（一〇一八）

（一〇一九）

（一〇二〇）

（一〇二一）

（一〇二二）

（一〇二三）

（一〇二四）

（一〇二五）

（一〇二六）

（一〇二七）

（一〇二八）

（一〇二九）

（一〇三〇）

（一〇三一）

（一〇三二）

（一〇三三）

（一〇三四）

（一〇三五）

（一〇三六）

（一〇三七）

（一〇三八）

（一〇三九）

（一〇四〇）

（一〇四一）

（一〇四二）

（一〇四三）

（一〇四四）

（一〇四五）

（一〇四六）

（一〇四七）

（一〇四八）

（一〇四九）

（一〇五〇）

（一〇五一）

（一〇五二）

（一〇五三）

（一〇五四）

（一〇五五）

（一〇五六）

（一〇五七）

（一〇五八）

（一〇五九）

（一〇六〇）

（一〇六一）

（一〇六二）

（一〇六三）

（一〇六四）

（一〇六五）

（一〇六六）

（一〇六七）

（一〇六八）

（一〇六九）

（一〇七〇）

（一〇七一）

（一〇七二）

（一〇七三）

（一〇七四）

（一〇七五）

（一〇七六）

（一〇七七）

（一〇七八）

（一〇七九）

（一〇八〇）

（一〇八一）

（一〇八二）

（一〇八三）

（一〇八四）

（一〇八五）

（一〇八六）

（一〇八七）

（一〇八八）

（一〇八九）

（一〇九〇）

（一〇九一）

（一〇九二）

（一〇九三）

（一〇九四）

（一〇九五）

（一〇九六）

（一〇九七）

（一〇九八）

（一〇九九）

（一一〇〇）

（一一〇一）

（一一〇二）

（一一〇三）

（一一〇四）

（一一〇五）

（一一〇六）

（一一〇七）

（一一〇八）

（一一〇九）

（一一一〇）

（一一一一）

（一一一二）

（一一一三）

（一一一四）

（一一一五）

（一一一六）

（一一一七）

（一一一八）

（一一一九）

（一一二〇）

（一一二一）

（一一二二）

（一一二三）

（一一二四）

（一一二五）

（一一二六）

（一一二七）

（一一二八）

（一一二九）

（一一三〇）

（一一三一）

（一一三二）

（一一三三）

（一一三四）

（一一三五）

（一一三六）

（一一三七）

（一一三八）

（一一三九）

（一一四〇）

（一一四一）

（一一四二）

（一一四三）

（一一四四）

（一一四五）

（一一四六）

（一一四七）

（一一四八）

（一一四九）

（一一五〇）

（一一五一）

（一一五二）

（一一五三）

（一一五四）

（一一五五）

（一一五六）

（一一五七）

（一一五八）

（一一五九）

（一一六〇）

（一一六一）

（一一六二）

（一一六三）

（一一六四）

（一一六五）

（一一六六）

（一一六七）

（一一六八）

（一一六九）

（一一七〇）

（一一七一）

（一一七二）

（一一七三）

（一一七四）

（一一七五）

（一一七六）

（一一七七）

（一一七八）

（一一七九）

（一一八〇）

（一一八一）

（一一八二）

（一一八三）

（一一八四）

（一一八五）

（一一八六）

（一一八七）

（一一八八）

（一一八九）

（一一九〇）

（一一九一）

（一一九二）

（一一九三）

（一一九四）

（一一九五）

（一一九六）

（一一九七）

（一一九八）

（一一九九）

（一二〇〇）

（一二〇一）

（一二〇二）

（一二〇三）

（一二〇四）

（一二〇五）

（一二〇六）

（一二〇七）

（一二〇八）

（一二〇九）

（一二一〇）

（一二一一）

（一二一二）

（一二一三）

（一二一四）

（一二一五）

（一二一六）

（一二一七）

（一二一八）

（一二一九）

（一二二〇）

（一二二一）

（一二二二）

（一二二三）

（一二二四）

（一二二五）

（一二二六）

（一二二七）

（一二二八）

（一二二九）

（一二三〇）

（一二三一）

（一二三二）

（一二三三）

（一二三四）

（一二三五）

（一二三六）

（一二三七）

（一二三八）

（一二三九）

（一二四〇）

（一二四一）

（一二四二）

（一二四三）

（一二四四）

（一二四五）

（一二四六）

（一二四七）

（一二四八）

（一二四九）

（一二五〇）

（一二五一）

（一二五二）

（一二五三）

（一二五四）

（一二五五）

（一二五六）

（一二五七）

（一二五八）

（一二五九）

（一二六〇）

（一二六一）

（一二六二）

（一二六三）

（一二六四）

（一二六五）

（一二六六）

（一二六七）

（一二六八）

（一二六九）

（一二七〇）

（一二七一）

（一二七二）

（一二七三）

（一二七四）

（一二七五）

（一二七六）

（一二七七）

（一二七八）

（一二七九）

（一二八〇）

（一二八一）

（一二八二）

（一二八三）

（一二八四）

（一二八五）

（一二八六）

（一二八七）

（一二八八）

（一二八九）

（一二九〇）

（一二九一）

（一二九二）

（一二九三）

（一二九四）

（一二九五）

（一二九六）

（一二九七）

（一二九八）

（一二九九）

（一三〇〇）

（一三〇一）

（一三〇二）

（一三〇三）

（一三〇四）

（一三〇五）

（一三〇六）

（一三〇七）

（一三〇八）

（一三〇九）

（一三一〇）

（一三一一）

（一三一二）

（一三一三）

（一三一四）

（一三一五）

（一三一六）

（一三一七）

（一三一八）

（一三一九）

（一三二〇）

（一三二一）

（一三二二）

（一三二三）

（一三二四）

（一三二五）

（一三二六）

（一三二七）

（一三二八）

（一三二九）

（一三三〇）

（一三三一）

（一三三二）

（一三三三）

（一三三四）

（一三三五）

（一三三六）

（一三三七）

（一三三八）

（一三三九）

（一三四〇）

（一三四一）

（一三四二）

（一三四三）

（一三四四）

（一三四五）

（一三四六）

（一三四七）

（一三四八）

（一三四九）

（一三五〇）

（一三五一）

（一三五二）

（一三五三）

（一三五四）

（一三五五）

（一三五六）

（一三五七）

（一三五八）

（一三五九）

（一三六〇）

（一三六一）

（一三六二）

（一三六三）

（一三六四）

（一三六五）

（一三六六）

（一三六七）

（一三六八）

（一三六九）

（一三七〇）

（一三七一）

（一三七二）

（一三七三）

（一三七四）

（一三七五）

（一三七六）

（一三七七）

（一三七八）

（一三七九）

（一三八〇）

（一三八一）

（一三八二）

（一三八三）

（一三八四）

（一三八五）

（一三八六）

（一三八七）

（一三八八）

（一三八九）

（一三九〇）

（一三九一）

（一三九二）

（一三九三）

（一三九四）

（一三九五）

（一三九六）

（一三九七）

（一三九八）

（一三九九）

（一四〇〇）

（一四〇一）

（一四〇二）

（一四〇三）

（一四〇四）

（一四〇五）

（一四〇六）

（一四〇七）

（一四〇八）

（一四〇九）

（一四一〇）

（一四一一）

（一四一二）

（一四一三）

（一四一四）

（一四一五）

（一四一六）

（一四一七）

（一四一八）

（一四一九）

（一四二〇）

（一四二一）

（一四二二）

（一四二三）

（一四二四）

（一四二五）

（一四二六）

（一四二七）

（一四二八）

（一四二九）

（一四三〇）

（一四三一）

（一四三二）

（一四三三）

（一四三四）

（一四三五）

（一四三六）

（一四三七）

（一四三八）

（一四三九）

（一四四〇）

（一四四一）

（一四四二）

（一四四三）

（一四四四）

（一四四五）

（一四四六）

（一四四七）

（一四四八）

（一四四九）

（一四五〇）

（一四五一）

（一四五二）

（一四五三）

（一四五四）

（一四五五）

（一四五六）

（一四五七）

（一四五八）

（一四五九）

（一四六〇）

（一四六一）

（一四六二）

（一四六三）

（一四六四）

（一四六五）

（一四六六）

（一四六七）

（一四六八）

（一四六九）

（一四七〇）

（一四七一）

（一四七二）

（一四七三）

（一四七四）

（一四七五）

（一四七六）

（一四七七）

（一四七八）

（一四七九）

（一四八〇）

（一四八一）

（一四八二）

（一四八三）

（一四八四）

（一四八五）

（一四八六）

（一四八七）

（一四八八）

（一四八九）

（一四九〇）

（一四九一）

（一四九二）

（一四九三）

（一四九四）

（一四九五）

（一四九六）

（一四九七）

（一四九八）

（一四九九）

（一五〇〇）

（一五〇一）

（一五〇二）

（一五〇三）

（一五〇四）

（一五〇五）

（一五〇六）

（一五〇七）

（一五〇八）

（一五〇九）

（一五一〇）

（一五一一）

（一五一二）

（一五一三）

（一五一四）

（一五一五）

（一五一六）

（一五一七）

（一五一八）

（一五一九）

（一五二〇）

（一五二一）

（一五二二）

（一五二三）

（一五二四）

（一五二五）

（一五二六）

（一五二七）

（一五二八）

（一五二九）

（一五三〇）

（一五三一）

（一五三二）

（一五三三）

（一五三四）

（一五三五）

（一五三六）

（一五三七）

（一五三八）

（一五三九）

（一五四〇）

（一五四一）

（一五四二）

（一五四三）

（一五四四）

（一五四五）

（一五四六）

（一五四七）

（一五四八）

（一五四九）

（一五五〇）

（一五五一）

（一五五二）

（一五五三）

（一五五四）

（一五五五）

（一五五六）

（一五五七）

（一五五八）

（一五五九）

（一五六〇）

（一五六一）

（一五六二）

（一五六三）

（一五六四）

（一五六五）

（一五六六）

（一五六七）

（一五六八）

（一五六九）

（一五七〇）

（一五七一）

（一五七二）

（一五七三）

（一五七四）

（一五七五）

（一五七六）

（一五七七）

（一五七八）

（一五七九）

（一五八〇）

（一五八一）

（一五八二）

（一五八三）

（一五八四）

（一五八五）

（一五八六）

（一五八七）

（一五八八）

（一五八九）

（一五九〇）

（一五九一）

（一五九二）

（一五九三）

（一五九四）

（一五九五）

（一五九六）

（一五九七）

（一五九八）

（一五九九）

（一六〇〇）

（一六〇一）

（一六〇二）

（一六〇三）

（一六〇四）

（一六〇五）

（一六〇六）

（一六〇七）

（一六〇八）

（一六〇九）

（一六一〇）

（一六一一）

（一六一二）

（一六一三）

（一六一四）

（一六一五）

（一六一六）

（一六一七）

（一六一八）

（一六一九）

（一六二〇）

（一六二一）

（一六二二）

（一六二三）

（一六二四）

（一六二五）

（一六二六）

（一六二七）

（一六二八）

（一六二九）

（一六三〇）

（一六三一）

（一六三二）

（一六三三）

（一六三四）

（一六三五）

（一六三六）

（一六三七）

（一六三八）

（一六三九）

（一六四〇）

（一六四一）

（一六四二）

（一六四三）

（一六四四）

（一六四五）

（一六四六）

（一六四七）

（一六四八）

（一六四九）

（一六五〇）

（一六五一）

（一六五二）

（一六五三）

（一六五四）

（一六五五）

（一六五六）

（一六五七）

（一六五八）

（一六五九）

（一六六〇）

（一六六一）

（一六六二）

（一六六三）

（一六六四）

（一六六五）

（一六六六）

（一六六七）

（一六六八）

（一六六九）

（一六七〇）

（一六七一）

（一六七二）

（一六七三）

（一六七四）

（一六七五）

（一六七六）

（一六七七）

（一六七八）

（一六七九）

（一六八〇）

（一六八一）

（一六八二）

（一六八三）

（一六八四）

（一六八五）

（一六八六）

（一六八七）

（一六八八）

（一六八九）

（一六九〇）

（一六九一）

（一六九二）

（一六九三）

（一六九四）

（一六九五）

（一六九六）

（一六九七）

（一六九八）

（一六九九）

（一七〇〇）

（一七〇一）

（一七〇二）

（一七〇三）

（一七〇四）

（一七〇五）

（一七〇六）

（一七〇七）

（一七〇八）

（一七〇九）

（一七一〇）

（一七一一）

（一七一二）

（一七一三）

（一七一四）

（一七一五）

（一七一六）

（一七一七）

（一七一八）

（一七一九）

（一七二〇）

（一七二一）

（一七二二）

（一七二三）

（一七二四）

（一七二五）

（一七二六）

（一七二七）

（一七二八）

（一七二九）

（一七三〇）

（一七三一）

（一七三二）

（一七三三）

（一七三四）

（一七三五）

（一七三六）

（一七三七）

（一七三八）

（一七三九）

（一七四〇）

（一七四一）

（一七四二）

（一七四三）

（一七四四）

（一七四五）

（一七四六）

（一七四七）

（一七四八）

（一七四九）

（一七五〇）

（一七五一）

（一七五二）

（一七五三）

（一七五四）

（一七五五）

（一七五六）

（一七五七）

（一七五八）

（一七五九）

（一七六〇）

（一七六一）

（一七六二）

（一七六三）

（一七六四）

（一七六五）

（一七六六）

（一七六七）

（一七六八）

（一七六九）

（一七七〇）

（一七七一）

（一七七二）

（一七七三）

（一七七四）

（一七七五）

（一七七六）

（一七七七）

（一七七八）

（一七七九）

（一七八〇）

（一七八一）

（一七八二）

（一七八三）

（一七八四）

（一七八五）

（一七八六）

（一七八七）

（一七八八）

（一七八九）

（一七九〇）

（一七九一）

（一七九二）

（一七九三）

（一七九四）

（一七九五）

（一七九六）

（一七九七）

（一七九八）

（一七九九）

（一八〇〇）

（一八〇一）

（一八〇二）

（一八〇三）

（一八〇四）

（一八〇五）

（一八〇六）

（一八〇七）

（一八〇八）

（一八〇九）

（一八一〇）

（一八一一）

（一八一二）

（一八一三）

（一八一四）

（一八一五）

（一八一六）

（一八一七）

（一八一八）

（一八一九）

（一八二〇）

（一八二一）

（一八二二）

（一八二三）

（一八二四）

（一八二五）

（一八二六）

（一八二七）

（一八二八）

（一八二九）

（一八三〇）

（一八三一）

（一八三二）

（一八三三）

（一八三四）

（一八三五）

（一八三六）

（一八三七）

（一八三八）

（一八三九）

（一八四〇）

（一八四一）

（一八四二）

（一八四三）

（一八四四）

（一八四五）

（一八四六）

（一八四七）

（一八四八）

（一八四九）

（一八五〇）

（一八五一）

（一八五二）

（一八五三）

（一八五四）

（一八五五）

（一八五六）

（一八五七）

（一八五八）

（一八五九）

（一八六〇）

（一八六一）

（一八六二）

（一八六三）

（一八六四）

（一八六五）

（一八六六）

（一八六七）

（一八六八）

（一八六九）

（一八七〇）

（一八七一）

（一八七二）

（一八七三）

（一八七四）

（一八七五）

（一八七六）

（一八七七）

（一八七八）

（一八七九）

（一八八〇）

（一八八一）

（一八八二）

（一八八三）

（一八八四）

（一八八五）

（一八八六）

（一八八七）

（一八八八）

（一八八九）

（一八九〇）

（一八九一）

（一八九二）

（一八九三）

（一八九四）

（一八九五）

（一八九六）

（一八九七）

（一八九八）

（一八九九）

（一九〇〇）

（一九〇一）

（一九〇二）

（一九〇三）

（一九〇四）

（一九〇五）

（一九〇六）

（一九〇七）

（一九〇八）

（一九〇九）

（一九一〇）

（一九一一）

（一九一二）

（一九一三）

（一九一四）

（一九一五）

（一九一六）

（一九一七）

（一九一八）

（一九一九）

（一九二〇）

（一九二一）

（一九二二）

（一九二三）

（一九二四）

（一九二五）

（一九二六）

（一九二七）

（一九二八）

（一九二九）

（一九三〇）

（一九三一）

（一九三二）

（一九三三）

（一九三四）

（一九三五）

（一九三六）

（一九三七）

（一九三八）

（一九三九）

（一九四〇）

（一九四一）

（一九四二）

（一九四三）

（一九四四）

（一九四五）

（一九四六）

（一九四七）

（一九四八）

（一九四九）

（一九五〇）

（一九五一）

（一九五二）

（一九五三）

（一九五四）

（一九五五）

（一九五六）

（一九五七）

（一九五八）

（一九五九）

（一九六〇）

（一九六一）

（一九六二）

（一九六三）

（一九六四）

（一九六五）

（一九六六）

（一九六七）

（一九六八）

（一九六九）

（一九七〇）

（一九七一）

（一九七二）

（一九七三）

（一九七四）

（一九七五）

（一九七六）

（一九七七）

（一九七八）

（一九七九）

（一九八〇）

（一九八一）

（一九八二）

（一九八三）

（一九八四）

（一九八五）

（一九八六）

（一九八七）

（一九八八）

（一九八九）

（一九九〇）

（一九九一）

（一九九二）

（一九九三）

（一九九四）

（一九九五）

（一九九六）

（一九九七）

（一九九八）

（一九九九）

（二〇〇〇）

（二〇〇一）

（二〇〇二）

（二〇〇三）

（二〇〇四）

（二〇〇五）

（二〇〇六）

（二〇〇七）

（二〇〇八）

（二〇〇九）

（二〇一〇）

（二〇一一）

（二〇一二）

（二〇一三）

（二〇一四）

（二〇一五）

（二〇一六）

（二〇一七）

（二〇一八）

（二〇一九）

（二〇二〇）

（二〇二一）

（二〇二二）

（二〇二三）

（二〇二四）

（二〇二五）

（二〇二六）

（二〇二七）

（二〇二八）

（二〇二九）

（二〇三〇）

（二〇三一）

（二〇三二）

（二〇三三）

（二〇三四）

（二〇三五）

（二〇三六）

（二〇三七）

（二〇三八）

（二〇三九）

（二〇四〇）

（二〇四一）

（二〇四二）

（二〇四三）

（二〇四四）

（二〇四五）

（二〇四六）

（二〇四七）

（二〇四八）

（二〇四九）

（二〇五〇）

（二〇五一）

（二〇五二）

（二〇五三）

（二〇五四）

（二〇五五）

（二〇五六）

（二〇五七）

（二〇五八）

（二〇五九）

（二〇六〇）

（二〇六一）

（二〇六二）

（二〇六三）

（二〇六四）

（二〇六五）

（二〇六六）

（二〇六七）

（二〇六八）

（二〇六九）

（二〇七〇）

（二〇七一）

（二〇七二）

（二〇七三）

（二〇七四）

（二〇七五）

（二〇七六）

（二〇七七）

（二〇七八）

（二〇七九）

（二〇八〇）

（二〇八一）

（二〇八二）

（二〇八三）

（二〇八四）

（二〇八五）

（二〇八六）

（二〇八七）

（二〇八八）

（二〇八九）

（二〇九〇）

（二〇九一）

（二〇九二）

（二〇九三）

（二〇九四）

（二〇九五）

（二〇九六）

（二〇九七）

（二〇九八）

（二〇九九）

（二一〇〇）

（二一〇一）

（二一〇二）

（二一〇三）

（二一〇四）

（二一〇五）

（二一〇六）

（二一〇七）

（二一〇八）

（二一〇九）

（二一一〇）

（二一一一）

（二一一二）

（二一一三）

（二一一四）

（二一一五）

（二一一六）

（二一一七）

（二一一八）

（二一一九）

（二一二〇）

（二一二一）

（二一二二）

（二一二三）

（二一二四）

（二一二五）

（二一二六）

（二一二七）

（二一二八）

（二一二九）

（二一三〇）

（二一三一）

（二一三二）

（二一三三）

（二一三四）

（二一三五）

（二一三六）

（二一三七）

（二一三八）

（二一三九）

（二一四〇）

（二一四一）

（二一四二）

（二一四三）

（二一四四）

（二一四五）

（二一四六）

（二一四七）

（二一四八）

（二一四九）

（二一五〇）

（二一五一）

（二一五二）

（二一五三）

（二一五四）

（二一五五）

（二一五六）

（二一五七）

（二一五八）

（二一五九）

（二一六〇）

（二一六一）

（二一六二）

（二一六三）

（二一六四）

（二一六五）

（二一六六）

（二一六七）

（二一六八）

（二一六九）

（二一七〇）

（二一七一）

（二一七二）

（二一七三）

（二一七四）

（二一七五）

（二一七六）

（二一七七）

（二一七八）

（二一七九）

（二一八〇）

（二一八一）

（二一八二）

（二一八三）

（二一八四）

（二一八五）

（二一八六）

（二一八七）

（二一八八）

（二一八九）

（二一九〇）

（二一九一）

（二一九二）

（二一九三）

（二一九四）

（二一九五）

（二一九六）

（二一九七）

（二一九八）

（二一九九）

（二二〇〇）

（二二〇一）

（二二〇二）

（二二〇三）

（二二〇四）

（二二〇五）

（二二〇六）

（二二〇七）

（二二〇八）

（二二〇九）

（二二一〇）

（二二一一）

（二二一二）

（二二一三）

（二二一四）

（二二一五）

（二二一六）

（二二一七）

（二二一八）

（二二一九）

（二二二〇）

（二二二一）

（二二二二）

（二二二三）

（二二二四）

（二二二五）

（二二二六）

（二二二七）

（二二二八）

（二二二九）

（二二三〇）

（二二三一）

（二二三二）

（二二三三）

（二二三四）

（二二三五）

（二二三六）

（二二三七）

（二二三八）

（二二三九）

（二二四〇）

（二二四一）

（二二四二）

（二二四三）

（二二四四）

（二二四五）

（二二四六）

（二二四七）

（二二四八）

（二二四九）

（二二五〇）

（二二五一）

（二二五二）

（二二五三）

（二二五四）

（二二五五）

（二二五六）

（二二五七）

（二二五八）

（二二五九）

（二二六〇）

（二二六一）

（二二六二）

（二二六三）

（二二六四）

（二二六五）

（二二六六）

（二二六七）

（二二六八）

（二二六九）

（二二七〇）

（二二七一）

（二二七二）

（二二七三）

（二二七四）

（二二七五）

（二二七六）

（二二七七）

（二二七八）

（二二七九）

（二二八〇）

（二二八一）

（二二八二）

（二二八三）

（二二八四）

（二二八五）

（二二八六）

（二二八七）

（二二八八）

（二二八九）

（二二九〇）

（二二九一）

（二二九二）

（二二九三）

（二二九四）

（二二九五）

（二二九六）

（二二九七）

（二二九八）

（二二九九）

（二三〇〇）

（二三〇一）

（二三〇二）

（二三〇三）

（二三〇四）

（二三〇五）

（二三〇六）

（二三〇七）

（二三〇八）

（二三〇九）

（二三一〇）

（二三一一）

（二三一二）

（二三一三）

（二三一四）

（二三一五）

（二三一六）

（二三一七）

（二三一八）

（二三一九）

（二三二〇）

（二三二一）

（二三二二）

（二三二三）

（二三二四）

（二三二五）

（二三二六）

（二三二七）

（二三二八）

（二三二九）

（二三三〇）

（二三三一）

（二三三二）

（二三三三）

（二三三四）

（二三三五）

（二三三六）

（二三三七）

（二三三八）

（二三三九）

（二三四〇）

（二三四一）

（二三四二）

（二三四三）

（二三四四）

（二三四五）

（二三四六）

（二三四七）

（二三四八）

（二三四九）

（二三五〇）

（二三五一）

（二三五二）

（二三五三）

（二三五四）

（二三五五）

（二三五六）

（二三五七）

（二三五八）

（二三五九）

（二三六〇）

（二三六一）

（二三六二）

（二三六三）

（二三六四）

（二三六五）

（二三六六）

（二三六七）

（二三六八）

（二三六九）

（二三七〇）

（二三七一）

（二三七二）

（二三七三）

（二三七四）

（二三七五）

（二三七六）

（二三七七）

（二三七八）

（二三七九）

（二三八〇）

（二三八一）

（二三八二）

（二三八三）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

(八) 蜘蛛（テ）
(九) 草（ス）
(十) 宮笑（ウラ）
(十一) 牡（ア）
(十二) 歳（ロ）
(十三) 春宮（ハル）
(十四) 春水（シュン スイ）
(十五) 第花（ナノ ハナ）

〔語句〕 壁以下七題共通

(五)
かぼそくて
そこなる
てるつゝの

(七)
くもの
蜘蛛ふるまひ
ちぢれたる
てるつゝ
もちゐて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七）

七）

（七七）

（七八）

（七九）

（八〇）

（八一）

（八二）

（八三）

（八四）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤（ゲ）

紅丹（ボタ）

更衣（コロモガヘ）

新枕（ロシン）

乙（オトヽ）

菖蒲（ショウブ）

蝙蝠（コウモリ）

扇（オウギ）

蟹（カニ）

夏夜（ヤカン）　所夏月（ナツツキ）、夏暁（ナツ）

蟬（セミ）　大雷（ライ）

少女（ヲトメ）

納涼（ナウリヤウ）

〔五〕

〔語曰〕

〔三〕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あけるる　つゝ阿[illegible]

あつ和の　くさ[illegible]

川ゝの　ゆゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

つゝのごとく[illegible]

いてゝそゞいと[illegible]

（[illegible]）

みゝ[illegible]

（[illegible]）

ゆゝ[illegible]

（八三）

[illegible]

（八四）

[illegible]

（八五）

[illegible]

（八六）

[illegible]

（八七）

[illegible]

（八八）

[illegible]

（八九）

[illegible]

（九〇）

[illegible]

（九一）

[illegible]

（九二）

[illegible]

（八二）夏の紀友則

ゆきかへる　ひとのなごりの　つきかげに
みどりの松の　はるかぜぞふく

（八三）

ゆきとのみ　ちるかとみえて　うちのぼる
はるのなごりの　はるかぜぞふく

（八四）

ゆきとのみ　ちるかとみえて　うちのぼる
はるのなごりの　はるかぜぞふく

（八五）

ゆきとのみ　ちるかとみえて　うちのぼる
はるのなごりの　はるかぜぞふく

あきのよの
ながきこころを
ひとりかな
（七十一）

ながめつる
あきのつきかな
（七十二）

ながめつる
あきのつきかな
（七十三）

ながめつる
あきのつきかな
（七十四）

ながめつる
あきのつきかな
（七十五）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋霧の（一五）
秋霧の（一五）
かすみこめたる
つゝ
ゆゞるたうの八のこゑ（八六）
さ）
雪降行の（八七）
雪降行（八八）
山（八九）
（九〇）
（九一）
（九二）
（九三）
水鶯の心（一五）

[illegible]

(二十一)

[illegible]

(二十二)

[illegible]

(二十三)

[illegible]

(二十四)

[illegible]

(二十五)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天ぢくらぶ
降るあられ
くらべすらくるる
さ
ゆのぶるふ
さ
ふるるふゆ
こ
ちるるけふ
こ
いそのぶ
ふるるそ
ゆるるる

[illegible]

(二十)

[illegible]

(二十一)

[illegible]

(二十二)

[illegible]

(二十三)

[illegible]

◎蠅（ハエ）附 ほうこ

◎蝸牛（カタツムリ）

◎蚊（カ）

◎蛇（ヘビ）

◎蟻（アリ）

◎蛞蝓（ナメクジ）

◎ろね

◎でんのむし

◎くちゝ

◎連歌（レンガ）

◎額（ガク）附 竹額

◎笠額（ガクン）

◎瓜（ウリ）

（五）

（七）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みやこにて
ゆきのあさ
ぼらけ
ふるさと
の
ゆきのあさ
ぼらけ
ふるさと
の
ゆきのあさ
ぼらけ
ふるさと
の
ゆきのあさ
ぼらけ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

〔語句〕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（二二）

（二三）

（二四）

（二五）

（二六）

（二七）

（二八）

（二九）

（三〇）

（三一）

（三二）

[illegible]

（八十二）

[illegible]

（八十三）

[illegible]

（八十四）

[illegible]

（八十五）

[illegible]

（八十六）

[illegible]

（八十七）

[illegible]

（八十八）

[illegible]

（八十九）

[illegible]

（七七）
故ゝゝゝ

のそのうのうぶ
（さと）
あるる人の血を
字
人の血をうるる
ニ
をぶ改るる
かぶらの
うるるる
つびのるる
せるるる
るるるは
るるるる

ゆめうつゝとも
[illegible]
さ
[illegible]
さ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂

ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂

ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂

ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂

ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂ ᠵᠠᠭᠠᠨᠳᠠᠷᠠᠯᠠᠭ᠎ᠠᠨ᠂

ゆうぐれの
(ト)
ゆうぐれて
こ
ゆうぐれの
(ナニ)
ゆうぐれの
ミ
つゆのなつのよのよの
つゆこ
あさぎん　さきの
いるるる　てて
つゆのなつの　ふふ

はるばるの
のぐのひ窮
ひさふてのけ
ろろまるの
さ
つまるぎまず
（ささ）
あすをもいろ
ニ
ひつてかつて
くるの者と
ろけるぐ
ひひるす
ニ

初秋（アキ）
七草（サウ）
萩（ヲギ）
月（ツキ）
虫（ムシ）
露（ツユ）
秋風（アキカゼ）
霧（キリ）
秋雨（アキサメ）

（語句）
夜長（ヨナガ）
夜長（ヨナガ）

（五）
秋〳〵として
秋〳〵の

（七）
秋〳〵
秋〳〵

あるじつ
のぐのしる
つゆけくて
そでうちぬ
ゆくゆの
てゆけて
夜のう
ゆのぐさの
しずくぬる
野分きの
ふくかぜの
ゆうぐれの

とのゝ後ふ
宮花ぬ いとど
袖ぬれて
ぬるとふるの
ふる雨の
つれづれの
いろどりの
つゆのしろ
ぬるゝかぬを
のゝぐさぐさの
ひかりの集
きりぎりすの
ふすぐるの

野ゝ
のゝ
ゝ
ゝ

○ 朽屋（くち）
鶏（うづら）
月（つき）
掃衣（はき）
蓬宿（よもぎ）
遠に之（をり）
菊（きく）
紅葉（もみぢ）
（語句）

（注）

上弦の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〔雜四〕

（雜四）

（雜四）

（雜四）

（雜四）

わたらぬこずゑ
（七十）
こずゑにさきのこるあしず
（七十一）
てずのかのうえに　ちるはな
（七十二）
ちるがしらゆきにこそ　しらゆきの
（七十三）
うつろふ　（五十九）
うつろふのいろにこそ　しらゆきの
（五十八）
そでのつゆ　しのぶがあるる　（五十七）
ぬきしたと　くちつのこずゑ　（五十六）
あらしちるの日　ちるぞのこる　（五十五）

いとゝうれしく
あはれなるこゝ
ろを
(八十)
やまとなでしこ
わすれてもこゝ
へ
(八十一)
なりのはなしこ
(八十二)
なのいろも
(八十三)
しのはの
(八十四)
そなびくる
(八十五)
よるのあめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらしを　分て　(八十)

あらしして　ふきこそ　(八十一)

ゆきちらすらし　(八十二)

てぶのふるさと

つもと　(八十三)

ちるもみぢ　てぶのふるさと

(八十四)

つるさとやり　(八十五)

ゆくすえふかし　(八十六)

ゆくすえふかし　ゆくすえふかし

ゆくすえふかし　(八十七)

（八二）

（八三）

（八四）

（八五）

（八六）

（八七）

（七二）

（八二）

上弦の

下弦

下弦の

（七七）

（七五）

（七六）

（七七）

（七八）

（七九）

（八〇）

（八一）

（八二）

（十七）

霜後と刈りたの（七

と）

（十八）

うらずうらやうて

（十九）

とうとうとうとう

（二十）

うらうらだの（五五）

うらうらだの（五六）

しんぞものうらだ（五七）

うらうらうらの（五

（二十一）

うらうらのうらの（三

ぬこりつる　ゝ
そで　のみよ
つくて　ゝ
ゝ　ゝ
田　さ
ぬりて　そで
（ことさ）
みりで　ゝ
ゝ（ことさ）
きゝ　ゝ
（ハそ）
ゝゝゝ　ゝ
たゝ　ゝ

（五十五）
（五十四）
（五十三）
（五十二）
（五十一）
（五十）
（五）
（五）

[illegible]（五十）

[illegible]（五十）

[illegible]（七五）

[illegible]（七十）

[illegible]（七七）

[illegible]（八二）

[illegible]（七三）

[illegible]（五五）

[illegible]（五四）

[illegible]（五十）

[illegible]（五十）

[illegible]（七五）

（ナシ）

（ナシ）

（ナシ）

（ナシ）

（ナシ）

（ナシ）

（ナシ）

（ナシ）

（ナシ）

917

[illegible]人の菊と
雨とのちがひ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまとなでしこ（三九）

ちはやぶる

（三十）

ちはやぶる

（三十一）

ちはやぶる

（三十二）

ちはやぶる

（三十三）

ちはやぶる

（三十四）

ちはやぶる

（三十五）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（二）落ち葉
（三）ちどり
（四）うぶね
（五）冬ごもり
（六）ちどり
（七）霜
（八）氷
（九）千鳥
（十）冬の月
（十一）歳暮
（十二）ふぶき

【熟句】

（一）
ちどり
ふゆごもり

〔進〕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四（八三）

[illegible]

（五五）

[illegible]

（五六）

[illegible]

（五七）

[illegible]

（五八）

[illegible]

（五九）

[illegible]

（六〇）

[illegible]

（六一）

[illegible]

（六二）

[illegible]

（八二）

（五五）

（五六）

（五七）

（五八）

（五九）

（六〇）

（六一）

（六二）

七）

いとのちぢ　の　ものとぶ（八）

六）べ

ちちちぢ　ちちて　風ものとぶ（八）

ら）

ゆちちぢ　たくみたる（五五）

ちゆ　みちぢて（五五）

汲ちちぢ　ちぢ　ちちて（五

七）

ちちちぢて　ちの（五七）

ちぢちち　ちの（五五）

ちちちち　ちて（七）

三）

と

[illegible]

[illegible]（十五）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

342

298

(二十二)

(二十三)

(二十四)

(二十五)

(二十六)

(二十七)

(二十八)